

ノ法則ト言ヒ、歳出ノ増加ハ年ヲ追フテ益、甚シキモ、是レ免カルヘカラサル或ハ必然ノ成リ行ナリト斷セリ、若シ果シテ然リトセハ之ニ對スル國本ノ培養ハ一日モ忽ニスルヲ得サルヘシ。

第四節 國家活動ノ標準

是ニ由テ觀レハ國家ノ爲スヘキ事業若クハ事務ハ、以上ノ三大目的ニ奉聯スルヤ明カナリ、然ラハ其ノ事務若クハ事業ハ、果シテ如何ナルモノナリヤ、予輩ノ見ル所ヲ以テスレハ以上三種ノ目的ニ伴フ事業ハ大要左ノ如シ。

一、人民ノ私利私益ニ委ヌルトキハ、到底成功スルノ望ナキ事業、例ヘハ軍事上ノ鐵道、裁判事務、金融ニ關スル經營施設ノ如シ、裁判事務ヲ營利的ニ而モ公平ニ爲スコトハ到底能ハサル所ナリ、軍事上ノ目的ヲ有スル鐵道ヲ營利的ニ敷設スルコトモ亦然リ、其ノ他一國ノ金融ヲ調和スル爲メニ夫レノ必要ナル設備ヲ爲シ、以テ一般ノ經濟ノ發展ヲ圖ルコトモ、營利ヲ目的トスル個

人或ハ會社ニハ不可能ニ屬ス。

二、一般人民ニシテ治ク其ノ利益ヲ受クヘキ性質ヲ有スル事業、例ヘハ警察事務、軍事行政等ノ如シ。

三、若シ其ノ經營施設ヲシテ有效ナラシメントスレハ、須ラク規模ヲ擴張スヘキ事業、是レ雷ニ普通行政上ノミナラス、經濟及ヒ交通行政ニ關シテハ殊ニ然ルヲ見ル、凡ソ經濟上ノ企業ニシテ其ノ規模大ナレハ益、其ノ利益ヲ増加スルモノアリ、是レニ反シテ其ノ規模ヲ擴張スルトキハ、縱令ヒ一時收益ノ増加ヲ見ルコトアルモ、終ニハ收益遞減法ノ爲メニ制セラレテ其ノ利益ヲ減スルモノアリ、例ヘハ、交通事業ノ如キハ前者ノ例ニシテ、普通生産業ノ如キハ後者ノ例ナリ。

四、事業ノ性質競争ヲ容レサルモノ、例ヘハ、鐵道事業ノ如シ、既ニ事業ノ性質上競争ヲ容レストセハ、斯ノ如キハ宜シク政府ノ事業トスヘキコト理ノ當然ナリ、然シナカラ事業ノ性質ヲ極メスシテ妄リニ官業或ハ獨占ノ方針ヲ

探ルモ不可ナリ。畢竟新ル性質ヲ具備スル事業ハ官業ヲ可トスルモ、其ノ然ラ
ナルモノヤテモ官業トスルコトトセハ、曾テ大革命前ノ佛蘭西ノ如キ殆ント
總テノ大任掛ノ事業ハ政府ノ特權ニ屬スルニ至ラン。是レ最モ注意シテ選ケ
タルヘカラサル點トス。

五、後世ノ爲メニ必要ナル事業。例ヘハ、教育或ハ營林事業等ノ如シ。
以上ノ性質ヲ備フル事業又ハ事務ハ、國家ノ須ラク自ラ經營スヘキ所ニシ
テ其ノ範圍及ヒ種類ノ如何ハ、歳出ヲ左右スル一大原因ト云フヘシ。今ヤ此等
ノ性質ヲ備フル事業ハ將來益、發展セントスルノ勢ヒナルカ故ニ財政ノ膨脹
モ亦己ムヘカラサルヤ言フ待タス。

第二十九章 歳出ノ分類

第一項 各國ニ於ケル歳出分類ノ要綱

第一節 要論

歳出ノ種類ハ歳入ニ較フレハ一層複雑ニシテ、謂ハハ國家又ハ地方團體ノ
事務又ハ事業ノ複雑ナルタケ、其ノ種類亦多キノ理ナリ。是レヲ以テ歳出ノ内
容及ヒ實質ニ付テ之ヲ分類スルハ洵トニ難キノミナラス、財政統計ノ目的ヲ
外ニシテハ、寧ロ無用ナルヤモ知ルヘカラス。故ニ歳出ノ區別ハ必スヤ先ツ行
政官廳ノ組織ニ從ヒテ分類スル方針ヲ採ルヲ可トス。換言スレハ各省ヲ基礎
トシテ分類ヲ企ツヘキモノトス。蓋シ斯クスルトキハ、一方ニ於テハ各省ノ管
掌事務ヲシテ一目瞭然ナラシメ、各種ノ經費ノ關係ヲ示スノミナラス、又兼テ
各省ノ權限ヲ明ニシ得ルヲ以テナリ。且近世ノ憲法、行政法、豫算會計法及ヒ大

臣責任論ノ本意ニ適ハシメントセハ以上ノ方法ニ據ルヲ以テ最モ至當ナリト云フヘシ、但シ其ノ經費ノ種類ニ依テ、各省ト直接ノ關係ヲ有セサルモノハ、別ニ之ヲ設クルモ差支ナシ、例ヘハ、皇室費、議會費、國債費、恩給費、扶助料等ノ如シ、我國ニ於テハ、皇室費ヲ除クノ外、各省ノ管掌事務ニ屬セサル經費ハ多ク之ヲ大藏省ニ歸屬セシム。

佛蘭西ニ於テハ、歳出ヲ分チテ先ツ經常及ヒ臨時ノ二種ト爲シ而シテ後各省ニ分附ス、其ノ大藏省ノ費目中ニハ、國債費、保護金、下付金、大統領費、海陸軍人ニ關スル恩給費、勳章費、其ノ他諸般ノ收納費ヲ含蓄セリ、是レニ由テ觀レハ、佛蘭西ニ於ケル歳出ノ分科ハ稍、我國ニ類似セリト云フヘシ、蓋シ我國ノ豫算制度ハ、佛蘭西ノソレニ依傍セルコト少カラスシテ、各省ノ分科ハ種類ニ依テ大別セラルル例多シ、但シ普魯西ニ於テハ各省ノ經費ヲ大別シテ先ツ人件費及ヒ物件費ノ二種ト爲シ、凡ソ人事ニ關スル經費ハ悉ク對人費中ニ編入シ、物品等ニ關スルモノハ悉ク對物費中ニ包含セシム、凡ソ經費ノ種類ハ極テ複雑ナ

リト雖モ、而モ大體上人又ハ物ニ關係スルヲ以テ、此クノ如クスルトキハ、自カラ豫算ノ編製及ヒ行政ノ運用上大ナル便利アリ、同國ノ例ニ據レハ、對人費中ニハ俸給、官宅料、雇員傭人ノ手當、官吏ノ加俸、賞與等ヲ含ミ、對物費中ニハ廳費例ヘハ薪炭料、車馬賃、建物賃貸費等ヲ含ム、是レ我國ノ豫算編製法ニ比シテ、多少便利ナル點ナリ、何トナレハ、若シモ我國ノ如クナラハ、各省内ニ於テ同一ノ費目ヲ二度三度以上モ掲上シ、以テ其ノ間ニ流用ヲ許ササルカ故ニ、縦令ヒ一方ニハ餘リアルモ一方ニハ不足スヘク、其ノ餘リアルモノヲ以テ不足ヲ補フコト能ハサルヲ以テナリ、例ヘハ府縣廳ノ俸給ニ餘リアルモ、之ヲ以テ北海道廳ノ俸給ノ不足ヲ補フコト能ハサルカ如シ、然ルニ今一省内ニ於テノ俸給ハ凡テ之ヲ一纏メニシ、各方面ニ亘リテ流用及ヒ支出ヲ圖ルコトヲ得ルコトトセハ、其ノ便少ナカラズ、我國ノ豫算ノ分科ハ、他ノ國ニ較フレハ折衷主義ヲ採レルモノト云フヘシ、經費ハ先ツ各省ニ分タレテ何何省所管ト稱セラレ、而シテ各省ノ經費ハ先ツ款ニ分ル、款ハ多ク一省中ニ於ケル部局ノ分類ナリ、款ハ

分テテ項ト爲ル項ニ至リテ始メテ經費ノ種類性質ニ隨テ之ヲ分ツ。例ヘハ四
十一年度ノ總豫算ニ據ルニ歳出經常部ニ於ケル内務省ノ經費ハ神宮費神社
費本省費等大凡ソ十款アリ、此ノ十款ハ更ニ項ニ別タレテ以テ經費ノ種類ヲ
構成ス。

諾威王國ノ豫算ハ是レニ反シテ各省内ニ於ケル各局課ヲ本トシテ豫算ヲ
編製スルヲ以テ、各局課別別ニ其ノ經費ノ種類ニ依リテ之ヲ計上セリ。例ヘハ
各局共ニ俸給ノ費目ヲ補アルカ如シ單ニ學理上ノ分類トスレハ兎ニ角、之ヲ
實際ノ上ヨリ觀レハ、諾威ノ如キハ不可ナリ。我國ノ如キ之ヲ諾威ニ比スレハ
一步ヲ進メタルモノナレトモ之ヲ普魯西ニ比スレハ一籌ヲ餘セサルヲ得ス。
何トナレハ款ヲ標準トシテ夫レ夫レ經費ヲ配付スルヲ以テ、聯合同一省ノ
經費ニ屬スルモ、尙ホ款ヲ異ニスルカ爲メニ融通ノ便ヲ缺キ、一方ノ餘レルヲ
以テ他方ノ不足ヲ補フコト能ハサルヲ以テナリ。

第二節 學理上ニ於ケル經費ノ種類

以上ハ各國ニ於ケル經費編成ノ概要ナルカ其ノ經費ヲ分類スルニ方リテ
ハ種々ノ標準アリ、或ハ其ノ目的ニ據ルアリ、或ハ其ノ效果ニ據ルアリ、或ハ其
ノ實質ニ據ルアリ、其ノ目的ニ據テ經費ヲ分ツトキハ、收納費及ヒ行政費ノ二
種ト爲ル、(行政費)ハ(政治費)ト云フヲ可トスルモ暫ラク從來慣用スル所ニ
從テ其ノ效果ニ就テ之ヲ分テハ、生産費及ヒ不生産費ト爲ル、其ノ實質ニ就テ
之ヲ分テハ、貨幣費及ヒ物品費ノ二種ト爲ル。

收納費或ハ財政費ハ、他ノ行政費ト其ノ性質ヲ異ニシ、爾ハ行政費ヲ支辨
スル爲メニ支出セラレル費用ニシテ、政治上特別ノ目的ヲ有セス、何トナレハ
財政費即チ收納費ノ多少ハ、毫モ國力ノ發展又ハ人民ノ利害休戚ニ關係セザ
ルヲ以テナリ、例ヘハ、租税ノ徵收費カ多額ヲ要シタレハトテ之カ爲メニ警察
軍備教育衛生等ノ行政ハ直接ニ何等ノ影響ナキカ如シ、故ニ此ノ標準ニ據テ

經費ヲ分フモ敢テ不可ナキモ、此ノ如キハ徒ニ其ノ分類ヲシテ紛雜ナラシムルノ虞アリ、又其ノ效果ニ據テ生産費及ヒ不生産費ノ二種ニ分ツハ、更ニ一層困難ナルヲ見ルヘシ、蓋シ政治上ノ經費ハ、其ノ生産費タルヤ將タ不生産費タルヤヲ決スル標準ナキノミナラス、政治ヲ律スルニ經濟上ノ規矩ヲ以テスルハ不可ナリト云フヘシ、況ンヤ、生産的及ヒ不生産的ノ區別ハ、是レ既ニ曾テ論述セシ如ク經濟學上不可ナルニ於テヲヤ、又貨幣費及ヒ物品費ノ區別ハ、一見其ノ要ヲ得ルカ如キモ、是レ亦實際ニ益ナシ。

以下豫算ノ編製上最モ關係アル經費ノ種類ヲ論セン。

第二項 經常歳出及ヒ臨時歳出

第一節 經常費及ヒ臨時費ノ解説一

經費ノ種類中、最モ重要ナルハ所謂經常及ヒ臨時歳出トス、此ノ區別ハ、自カラ經常及ヒ臨時歳入ト伴フヲ以テ、既ニ歳入ニ關シテ論究セシ所ハ移シテ以

テ此ニ適用スルコトヲ得ヘク、此ノ區別カ豫算編製上ノ便宜ニ基因スルコト多キモ亦彼ノ歳入ノ場合ニ於ケルト等シ、但シ經常及ヒ臨時歳出ノ區別ハ經常及ヒ臨時歳入ニ比シテ、其ノ關スル所廣ク且大ニシテ、實ニ財政上ノミナラス、政治上殊ニ對議會政略上一層重大ノ關係ヲ有ス。

抑モ經常及ヒ臨時歳出ニ對シテハ三種ノ解釋アリ、其ノ一ハ經費ノ豫算トニ表ハレタル時期ヲ以テ根柢トシ、其ノ二ハ經費ノ使用ニ依テ生スル結果ニ從ヒ其ノ三ハ憲法上ノ規定ニ基ツク歳出入ノ標準關係ニ依ルモノ即チ是ナリ。

第一、經費ノ豫算上ニ表ハレタル時期ヲ以テ其ノ標準トシ、歳出ヲ解釋ストキハ、經常費トハ、一定ノ時期ニ於テ常ニ起ル事件ノ爲メニ費消セラレルノヲ謂フ、此ノ解釋ニ從トキハ、凡ソ經常費タルモノハ年々豫算上ニ表ハルモノナルコト費消シ盡サルモノタルコト及ヒ縱令ヒ金額ニ於テハ年々多少異動アルモコハ敢テ問フ所ニアラサルコト是レナリ、臨時歳出ハ、是レニ以

シテ或ル特別ノ事情ノ爲メニ要スル經費、若クハ既ニ一度ヒ其ノ費額ノ定マ
ラタル後更ニ事情ノ變更ニ基キ増加セラレル經費ヲ謂フ。是レヲ以テ臨時費
ハ通常政府ノ豫想セラル政務ノ爲メニ要スル經費ナリ。

其ノ豫算上ニ表ヘルルヤ或ハ一年限リノモノアリ、或ハ數年ニ亘ルモノア
リ、若シ政府ニシテ財政計畫ナルモノヲ有ストセハ、臨時費ハ通常其ノ内ニ豫
想セラレサル經費ニ外ナラス。予輩ノ茲ニ財政計畫ト云ヘルハ、彼ノ日清戰爭
後ノ所謂財政十年計畫ト云フカ如キ大計畫ヲ指スモノニアラス、唯年年歳歳
當局者ノ定規トスル方針ヲ指スニ外ナラス。是レ獨逸ニ於テ一般ノ用例トシ
テ使用セラレル所ナリ、其ノ起源及ヒ沿革ニ徴スルニ今ヨリ百有餘年前マテ
ハ、多クノ國ハ現今謂フ所ノ豫算ナルモノナカリキ、而シテ此ノ豫算ナキ代リ
ニ財政當局者ハ其ノ心得トナスカ爲メ、一定ノ方針ニ基キタル財政上ノ綱領
ヲ立テタリ。是レ則チ財政計畫ナルモノニシテ、謂ハハ現今ノ豫算ニ代ルモノ
ナリ。此ノ沿革アルカ爲メニ、今ニ至ルモ尙ホ普魯西或ハ埃太利等ニ於テ財政

計畫ナル文字ハ實際上多少ノ意味ヲ有ス、尤モ強テ此等ノ兩國ニ於ケル意味
ニ從フヲ要セラルモ茲ニ所謂財政計畫トハ、當局者カ常ニ豫想セル計畫或ハ
方法ノ意味ナリト解シテ可ナリ。

第二節 經常費及ヒ臨時費ノ解説ニ及ヒ三

第二、經費ノ結果ニ依テ其ノ經常費タリ、若クハ臨時費タルヲ解釋スルハ、一曰
曖昧ナル區別ニ似タレトモ又財政上政治上輕視スヘカラサルモノトス。此ノ
解釋ニ從ヘハ、經常費トハ其ノ結果ノ一年ニ止マルモノヲ云ヒ、臨時費トハ見
レニ反シテ其ノ結果ノ永ク存在スルモノヲ謂フ。惟フニ策シテ爲メニ支出ト
ラルル臨時費ハ國家永遠ノ目的ノ爲メニ費消セラルルヲ當トス。而シテ國家
ノ永遠ノ事業ヲ策スルヤ其ノ結果ノ多ク留存スルモノタルヤ言フヲ俟タ
是レ政治道徳ヨリ觀ルモ亦然ラサルヲ得ス。何トナレハ、臨時費出ノ負擔ハ當
ニ今世ノ國民ノミニ止マラスシテ、後世ノ國民ニ之ヲ分タシメルコトカ多キ

ヲ以テナリ。例へハ、國有鐵道ノ敷設、軍備擴張、行政改革ノ如シ、又經費ノ結果ニ注目シテ經常費及ヒ臨時費ノ意義ヲ説明スルトキハ、其ノ財源ノ撰擇上常ニ據ルヘキノ方針ヲ見出スコト容易ナリ。何トナレハ、臨時費ノ結果ハ永遠ニ亘ルヲ以テ、其ノ負擔モ亦永遠ナラシムルニ反シ、經常費ノ結果ハ一時又ハ一年ニ止マルヲ以テ、其ノ財源モ亦年々歳々繰返ヘサルル收入ヲ以テ之ニ充ツヘキヲ至當トスヘキヤソノ數ナリ。彼ノ臨時費ハ公債ニ依リ、後世ノ子孫ヲシテ其ノ負擔ヲ分タシムルト云フカ如キハ以上ノ理ニ出ツルニ外ナラス。

第一ノ解釋ハ、經費ノ豫算上ニ表レル表面上ノ解釋ニシテ謂ハハ外面上ノ觀察ナルカ、第二ノ解釋ハ政治及ヒ行政上ノ關係ニ基クヲ以テ、寧ロ前者ニ比シテ却テ緊切ナル所アリ。而シテ此クノ如ク經常費ノ結果ハ一時ニ止マリ、臨時費ノ結果ハ永ク存スルヲ以テ、論者或ハ經常費ヲ以テ、流動資本ニ比シ臨時費ヲ以テ固定資本ニ比スル者アリ。凡ソ流動資本ト云ヘハ、常ニ費消セラレ且費消シ盡ナレサルヘカラサルモノナルニ反シ、固定資本ハ一度之ヲ放下シタ

ル以上、其ノ結果ハ永ク存シテ多年ノ使用ニ耐ユルヲ得ルモノナリ。

政府ノ經費ヲ以テ是レニ比スルニ、恰モ同様ナル關係アリ。官吏ノ俸給ノ如キハ月月之ヲ仕拂ハサルヘカラサルモ、仕拂ヲシタルタケノ結果ハ、執務ノ上ニ現ハル、又消耗品ヲ用ユルモ同様ニシテ、其ノ結果ハ直ニ現ハレ、又常ニ繰返ヘサルルモノナリ。之ヲ以テ經常歳出ト流動資本——通常ノ企業ニ於ケル流動資本トハ、其ノ性質效用ヲ同シクスルモノト云フヘシ。是レヲ以テ一國ノ政治ヲ經濟的企業ニ比較シ得ヘシトセハ、以上ノ比較ハ洵ニ趣味アリト云フ、キナリ。但シ經費ノ結果ニ就テ、其ノ臨時費タリ將タ經常費タルヤヲ判斷スルハ、唯大體ニ就テノミ言フヘクシテ、精密ニ同一ノ解釋ヲ適用スルコト能ハサル點アルハ言フ俟タス。何トナレハ、謂フ所ノ臨時費モ實際上必スシモ其ノ結果ヲ永遠ニ及ホササルヲ以テナリ實際上ハ學理ノ指定スル如ク爲ルコト能ハサル場合アルヘキモ予輩ノ希望スル所ハ、以上ノ解釋ニ從ヒ、臨時費ハ主トシテ、其ノ結果ヲ永遠ニ及ホスモノトシ、經常費ハ是レニ反シ其ノ結果一時的

ノモノトシテ、經費ノ所屬ヲ定ムルニ在リ、何カ經常費ナルカ、何カ臨時費ナルカ、之ヲ判斷スル標準ハ、第二ノ解釋ニ據ルヲ以テ、最モ適當ナリト信ス。若シ此ノ解釋ニ據ラスシテ、徒ニ外觀上ノ標準ヲ採ルトキハ、其ノ影響スル所決シテ輕カラス。爲メニ豫算ハ、遂ニ無効ニ歸スルノ虞アリ。露西亞ノ財政ノ如ク、何カ臨時費ナルカ、何カ經常費ナルカ、一定ノ標準ナク、唯豫算編製ノ都合ヨリ或ハ臨時費ニ組入レ、或ハ經常費ニ組入ルルカ、如キ其ノ例ナリ。

既ニ述ヘルカ、如ク、臨時費ノ多クハ、通常アリ得ル所ノ財源ヲ以テ之ヲ支辨スルコト難ク、多クハ、財政家ノ腦筋ヲ絞リテ、臨時ノ財源ヲ索メサルヘカラス。此ノ關係ニ由テ觀ルモ、臨時費ハ、唯タ一時的事ニ費ヤスヘカラス、自ラ明カナラン。茲ニ所謂經費ノ結果ト云フハ、必スシモ有形的ニ永ク遺ルモノノミナラス、無形的ニ永ク遺ルモノモ亦之ヲ包含ス。例ヘハ、戰爭ノ結果ノ如キハ、何カ結果ナリトシテ、肉眼ヲ以テ見ルコト能ハサルモ、國威ノ發揚、國家ノ地位ノ昇進、或ハ國民ノ經濟上ノ基礎ノ確保等ハ、永ク國民共有ノ財產トシ、共有

ノ名譽トシテ遺ルモノナルヲ以テ、是レ亦經費ノ結果ト云フコトヲ得ヘシ。但シ有形及ヒ無形的ニ遺ラスシテ、雲散霧消スルモノナキニアラス。斯クノ如キモノハ、臨時費ノ中ニ加ヘサルヲ穩當トス。斯カル費用ハ、第二ノ解釋ニ據レハ、臨時費トハ言フコト能ハサルモ、第一ノ解釋ニ據レハ、勿論臨時費タリ。之レ解釋ノ根據ヲ異ニスルヨリ生スルモノニシテ、又已ムヲ得サルコトトス。予輩、信スル所ニ依レハ、綜合ヒ、一時的ノ事ナリトスルモ、其ノ結果ノ永ク遺ラザモノハ、便宜上之ヲ經常費ニ入ルルヲ以テ、其ノ宜シキヲ得タルモノトス。

第三ノ解釋ハ、豫算ノ編製ニ關スル法律ノ規定ニ基ク。謂ハハ、收支調和ノ關係、換言スレハ、歳出ノ支辨ニ充ツル歳入ノ財源ノ如何ニ由リ、經常及ヒ臨時歳出ノ意義ヲ定メントスルモノナリ。即チ、經常費ハ、通常存在スル歳入ヲ以テ、支辨セラルル經費ニシテ、臨時費トハ、不時又ハ臨時ノ財源ヨリ生スル收入ヲ以テ、支辨セラルルモノヲ云フ。是レ財源ニ依テ、二者ノ意義ヲ定ムルモノニシ、ノ學理上殆ト用ヲ爲ササルカ、如キモ、而モ實際ニ於テハ、之ニ從フ形跡ナキニ

ラス、殊ニ佛蘭西ノ千八百七十八年十二月二十二日ノ法律ハ、此ノ方針ニ從テ以テ豫算ニ關スル法律ヲ制定シタリ。

第三項 憲法費、行政費及ビ財政費

憲法費、行政費及ヒ財政費ノ區別ハ政治學上ノ見解ニ基クモノナレトモ、實際上並ニ經濟學上一顧ノ價值アルヲ信ス。凡ソ歳出中ニハ、純然タル收納作用ノ爲メニ使用セラルルモノアリ、國家ノ目的ヲ遂行スル行政ノ爲メニ費消セラルルモノアリ、又國家ノ最高機關ヲ維持スル爲メニ充テラルルモノアリ、以上三種ノ區別ハ、自カラ經費ノ性質ニ從テ觀アルヲ見ル、今之ヲ經濟上ヨリ説明セン。

暫ク個人ノ經濟觀ヲ以テ之ヲ説明スレハ、凡ソ生産ヲ行ハントセハ、必スヤ三種ノ費用ヲ要ス即チ

一、地代

二、利子及ヒ企業所得

三、其ノ他ノ生産費、例ヘハ勞銀、原料費及生産上直接ニ費消スル物品費是ナリ。勿論國家ト生産的企業トハ同一ノ比ニアラサルモ、假リニ之ヲ比較スレハ、歳出ハ亦以上三種ノ生産上ノ費目ニ該當スルノ觀アリ。例ヘハ憲法費ハ以テ地代ニ比スヘク、行政費ハ以テ企業所得及ヒ利子ニ比スヘク、財政費ハ以テ其ノ他ノ生産費ニ擬フヘキカ如シ、今經費ノ性質效用ヲ説明スル爲メ暫ク之ヲ比較セン。

抑モ財政費ハ、歳入ヲ得ンカ爲メニ費消セラルルモノニシテ、行政費及ヒ憲法費ハ、財政費ノ結果ナリ。換言スレハ、財政費アルカ爲メニ、行政費及ヒ憲法費ヲ支辨スルニ必要ナル歳入ヲ得ルノ理ナリ、恰モ一個人ノ經濟ニ於テ彼等先ツ勞銀、原料品、消耗品等直接生産ニ必要ナル入費又ハ物品ヲ費消シタル後其ノ得タル結果ヲ以テ、利子及ヒ其ノ他ノ經費ヲ仕拂フニ似タリ、而シテ生産上勞銀、原料費及ヒ消耗費等ハ、常ニ仕拂フコトヲ要スル入費ナルト等シク、州

政費ハ國家ノ機關ヲ運用スルニ方リテ常ニ缺クヘカラサルモノナリ。而シテ更ニ企業家又ハ資本家ハ、其ノ所得若クハ利子ニ據テ以テ自家ノ生計ヲ支フルノミナラス、將來ノ計畫モ亦是レニ據ルモノナルト等シク、團體經濟ニシテ其ノ政務ヲ行ヒ且將來ニ向ツテ計畫セントスレハ、一ニ行政費ニ俟ツノ外ナシ。是レ予輩カ、團體經濟ニ於ケル行政費ヲ以テ個人經濟ニ於ケル企業所得及ヒ利子ニ擬スル所以ナリ。

憲法費ハ、國家ノ統治及ヒ立法機關ノ用ニ充ツル經費ニシテ、直接ニ憲法ノ規定ニ基キテ支出セラレ爾ハハ政治ノ基礎ヲ成スモノナリ。然ルニ地代ハ土地ノ利用ニ對スル經費ニシテ、其ノ所有者ハ毫モ己レノ能力或ハ手足ヲ勞スルコトナクシテ、苟モ生産ノ行ハルル以上ハ居ナカラ之ヲ取得スルコト、恰モ國家ノ存立スル以上、先ツ主權者ノ經費ナカルヘカラサルニ等シ。地代ハ常ニ生産費以外ニ超然トシテ、生産費ノ多少ハ、毫モ農産物ノ價格ニ影響セサルコトニ學者ノ説明セル所ナリ。憲法費ハ財政上之ト類似ノ關係及ヒ地位ヲ有

ス。彼ノ志、びるりすとノ如キ、國ニ依テ一様ニアラサルモ、屯ニ角帝王室ノ模範ト稱セラルル英國又ハ日本ニ在ツテハ、行政ノ變遷政治ノ伸縮ニ隨テ毫モ變動スルコトナク、其ノ以外ニ超然トシテ、一般ノ歲出ト關係スル所ナシ。惟フニ憲法費ノ名稱タルヤ、其ノ行政費ニ對スルノ故ヲ以テ、直チニ之ヲ立法費ト爲スヘカラス。何トナレハ、憲法費ハ皆ニ立法費ノミナラス、國家ノ最高機關ノ爲メニ要スル經費ヲ主トスレハナリ。但シ憲法費ナル名稱ハ必スシモ穩當ニアラス何トナレハ、諸般ノ經費ハ直接若クハ間接ニ憲法ノ規定ニ基キ或ハ之ニ準據セサルモノナキカ故ナリ。故ニ予輩ハ其ノ經費カ一般政治ノ基礎ヲ成スニ願ミ寧ロ之ヲ稱シテ一般經費ト名クルノ優レルニ如カスト信ス。

第三十章 各國歲出ノ概況

第一節 歲出ノ概計

頻年各國ノ歲出ハ膨脹シテ殆ント停止スル所ナク、殊ニ我國ニ於テハ日清及ヒ日露兩大戰役ノ結果明治二十七八年以來僅僅十年ナラスシテ國民ノ負擔ハ約八倍ノ増加アルヲ見ル、是レ稀ニ見ル所ノ増加ニシテ各國中殆ント類例ヲ求ムヘカラス、現ニ明治四十二年度ノ現計ニ依ルニ、歲出經常部ハ三億九千五十四萬五千二百八十三圓、臨時歲出ハ一億四千二百三十四萬八千三百三十五圓、歲出總計五億三千二百八十九萬三千六百十八圓、同四十三年度ノ豫算ニ依レハ經常歲出四億〇八百十五萬七千四百三十五圓、臨時歲出一億二千三百十四萬六千四百二十六圓、歲出總計五億三千四百三十三萬三千八百六十一圓ニシテ、本年度ハ經常部四億〇四百十六萬三千九百九十一圓、臨時部一億四千四百八十六萬八千五百四十八圓ニシテ、總計五億五千二百〇三萬二千五百三

十九圓ナリトス、然モ是レ一般會計ニ就テ云フノミ、若シ夫レ之ニ加フルニ特別會計ノ歲出入ヲ以テセンカ、此ノ外ニ少クトモ正味一億五六千萬圓ノ増加ヲ來タスヘキナリ、是レニ依リテ之ヲ見ルニ經常及ヒ臨時歲出ノ間ニ於ケル權衡ハ常ニ臨時ニ重クシテ、現ニ本年度ノ如キハ四億許ノ經常歲出ニ對シテ億四千五百萬弱ノ臨時歲出アリテ、後者ハ優ニ前者ノ三分ノ一以上ニ達ス、以テ如何ニ財政ノ絀調急ナルヲ察スルニ足ル、諺ニ曰ク、大絀急ナレハ小絀絶ユト、今ヤ大絀小絀共ニ急ニシテ、之カ爲メ國家民人ノ奔勞シツツアルハ云フヲ俟タス、其ノ原因少カラスト雖モ、連年臨時歲出ノ多キニ過クルハ豈其ノ一大原因タラストセンヤ、我國家民人ハ果シテ斯ノ如ク急劇ニ萬事ヲ處セサルヘカラサルカ、吾人ハ多少ノ疑ナキ能ハサルナリ。

第二節 國防費、國債費及ヒ行政費

予輩ハ茲ニ經費ヲ分ツテ國防費、國債費及ヒ行政費ノ三トナシ、先ツ本邦歲

出ヲ論シ、次ヲ主要ナル諸國ノ歳出ニ就テ計較スル處アラシク、庶幾クハ以テ財
政ト國利民福ト相關聯スル所アルヲ知ルノ一助ヲランカ。

明治維新ノ當初中央政府ハ軍備ヲ有セス、廢藩置縣ノ後兵馬ノ權漸ク中央
政府ニ歸シ、明治五六年ノ頃陸軍費ハ七八百萬圓、海軍ハ百四五十萬圓ノ經費
ヲ要スルノミニシテ、恰モ歳出ノ五乃至六分ノ一ニ當リキ、後二十四年度ニ及
ヒ國防費ハ増シテ歳出ノ三分ノ一ヲ占メントシ、而シテ行政費ハ其ノ二分ノ
一國債費ハ五分ノ一ニ過キス、爾來行政費ハ漸ク其ノ比例ヲ減少シ、日露戰役
後遂ニ國債費ノ増加セシ爲メ他ハ其ノ四分ノ一ニ止マル、今左ニ明治四十二
年度ノ計數ヲ掲ケテ以テ其ノ大要ヲ示サントス、而シテ予輩ノ特ニ四十二年
度ヲ採ル所以ハ他ナシ、各國トノ比較上便宜ナルカ故ナリ。

費目	金額	百分率
國防費	一一八三〇四六〇〇	百分ノ二十九
國債費	一九一九三八三四九	同 四十七
經常費	九四四五七五七七	同 二十四
行政費		

臨時費	國防費	國債費	行政費
	五五九四八二三五	同	同
	二八六八九九二	同	同
	五五四〇四三五四	同	同

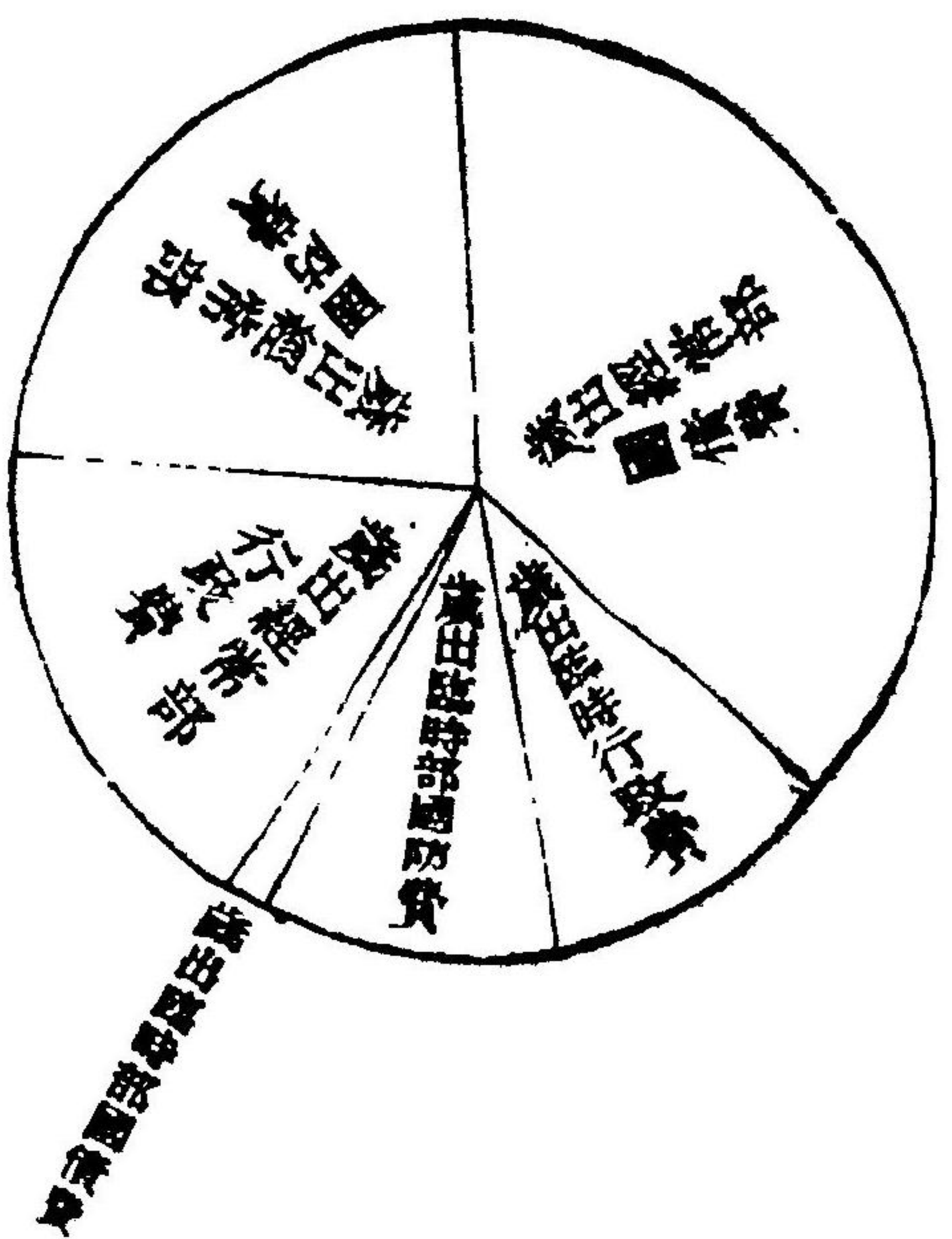
然リ而シテ歐米強大國ノ歳出膨脹ノ原因ハ主トシテ國防費又ハ軍備費ノ
増加ニ基クヲ以テ、試ミニ左ニ明治四十二年度ノ國防費ヲ擧ケ、而シテ明治二
十六年度ノソレニ比シ、増加ノ歩合ヲ比較セン。

國名	金額 (單位百萬圓)	増加ノ歩 (百分率)
英國	一五七五	一二六
獨逸	三九九六	一三四
露國	二七一九	二四八
米國	一八一四	一九七
佛國	一五五二	一一九
埃國	一七三九	一六八
伊太利	八〇八	一二〇

各國歳出ノ概況 國防費、國債費及ヒ行政費

此ノ年間ニ於ケル我國防費ノ増加ハ實ニ百分ノ六百九ニシテ實ニ六倍強ニ達ス尙ホ以上ノ關係ヲシテ一見明瞭ナラシメンカ爲メ之ヲ圖示スルコト左ノ如シ、

明治四十二年歳出分配額大要



第三節 生産的及ヒ不生産的經費

既ニ述ヘタリシ如ク國費ヲ分ツテ生産的及ヒ不生産的經費トナス者アリ、元來生産的及ヒ不生産的ノ意味明カナラサルヲ以テ、此ノ區別タル左迄學理上ノ價值ナシト雖モ、亦必シモ一顧ノ值ナカラシヤ。予輩ハ假ニ陸海軍費ト鐵道以外ノ國債費トヲ以テ不生産的經費トナシ、爾餘ノ歳出ヲ生産的經費トナシ以テ其ノ不生産的經費ニ關スル各國ノ歳出ヲ比較セントス、是レ嘗テ獨逸帝國政府カ財政改革ノ參考トシテ計査セシ所ナリ。

國名 (三十九年度)	金額 (百萬馬克位)	百分率
日本	499	48.0
英國	183.9	17.8
獨逸	167.1	16.2

各國歳出ノ概況 生産的及ヒ不生産的經費

伊	露	米
太	國	國
利	國	國
八六九	一七九〇	一〇七四
五八〇六	三二四〇	三四七四

五八八

第四編 公債論

第三十一章 公債ノ概念及ヒ種類

第一節 公債ノ意義及ヒ歳入不足ト其ノ

補填

文字上公債ト云フト雖モ、其ノ性質ニ至テハ、一個人ノ私債ト異ル所ナシ、唯其ノ金額ノ多少運轉ノ方法及ヒ範圍ニ於テ異ナルアルノミ、其ノ金額ノ多クナルト、結果ノ及フ所廣キカ爲メニ、一國ノ金融及ヒ經濟市場ニ及ホス影響ハ固ヨリ私債ノ比ニアラス。此ノ點ヨリ見ルトキハ、公債ハ一國ニ於ケル金融ヲ支配シ延テ國際間ノ資本融通ニ關ス。然リ面シテ國內ニ於テモ又國際間ニ於テモ、公債ノ募集及ヒ償還ハ常ニ金融上ノ法則ニ支配セララルモノトス。之ヲ稱シテ國債ト云ヒ或ハ公債ト云フモ、其ノ實差異アルニアラス。唯後者ハ前者

公債ノ概念及ヒ種類 公債ノ意義及ヒ歳入不足ト其ノ補填

ニ比シテ其ノ範圍狹ク、中央政府ノ債務ノミヲ指スニ外ナラス。其ノ名ハ異ル
ト雖モ、其ノ原理ニ至テハ異ル所ナシ。

公債又ハ國債ノ起因ハ、云フ迄モナク歳入ノ不足ニ存ス。歳入ノ不足ニ二種
アリ、一ヲ會計上ノ不足又ハ一時ノ不足ト爲ス。即チ豫算成立後歳入及ヒ歳出
ノ狀況ニ由リテ生スル會計上ノ不足ナリ。此ノ種ノ不足ハ、通常公債又ハ國債
ノ原因ト爲ラサルモ、而モ其ノ不足ニシテ永續的ナランカ、遂ニハ公債ノ一大
原因ト爲ルヘシ。例ヘハ、現時ノ露西亞及ヒ十數年前ノ伊太利、佛蘭西ノ財政ニ
於ケルカ如シ、而シテ狹義ノ歳入不足トハ之ニ反シテ經常歳入ヲ以テ經常歳
出ヲ支辨スルコト能サル場合ヲ指ス。此ノ種ノ歳入不足又ハ歳出超過ヲ補填
スル方法トシテハ、大要四箇ノ手段アリ。第一ハ官公有財産ノ拂下ニシテ第二
ハ、國有又ハ公有ノ資金ノ流用ナリ。就中重要ナルハ、第三租稅ノ増徴及ヒ第四
公債ノ募集ト爲ス。左レハ臨時ノ歳出ヲ補填スル政策トシテ、更ニ租稅及ヒ公
債ノ中其ノ孰レニ據ルヘキヤノ問題ヲ生スルコト稀ナリトセス。或ハ租稅ハ

直接ニ人民ノ負擔ト爲ルモ、公債ハ之ニ反シテ間接ノ負擔ト爲ルト云フ者
リ。是非ノ論常ニ相半ハス。而シテ實際ニ在テハ、常ニ前者ヲ避ケテ後者ヲ採
ルノ傾向アリ。何トナレハ、租稅ハ悉ク現代ノ人民ノ負擔ト爲ルニ反シ、公債ハ之
ヲ後世ノ負擔ト爲スコトヲ得レハナリ。兎ニ角、租稅ノ増徴及ヒ公債ノ募集
其ノ金額ノ大ナルト、經濟界ニ及ホス影響ノ大ナルカ爲メ、最モ慎重ニ取扱
サルヘカラス。茲ニハ先ツ公債ノ經濟上ニ及ホス影響ニ付テ説カシ。

第二節 公債ノ影響

第一、公債ノ生産上ニ及ホス影響。此ノ問題ニ付テハ、常ニ相反スル兩説ハ
ハル。一ハ樂觀的ノ説ニシテ、一ハ悲觀的ノ説ナリ。其ノ第一説ニ曰ク、公債ハ真
金ヲ餘リアル所ニ取リテ、必要ナル所ニ用フ。故ニ應募スル者ハ自ラ進ンテ之
ニ趣クヘシ。租稅ハ之ニ反シテ、一般人民ノ負擔ニ歸スルヲ以テ、其ノ負擔者ハ
自ラ之ヲ好マサルノミナラス、緩急常ニ多少ノ不便ヲ忍ハサルヲ得ス。故ニ租

税ハ生産ノ進路ヲ妨害スルニ反シ、公債ハ却テ之ヲ助長スト、然ルニ第二ノ説ヲ爲ス者ノ言ニ曰ク、租税ハ國民ノ皆常ニ覺悟セル所ナルノミナラス、其ノ金額ハ一個人ニ取リテ左マテ多大ナラサルヲ以テ、殆ト生産ヲ妨クルコトナシ然ルニ、公債ハ金融市場ヨリ資本ヲ吸收スルヲ以テ、自ラ生産場裡ヨリ資本ヲ奪取スル結果ヲ生スルニ至ルト、子輩ノ見ル所ヲ以テスレハ、以上ノ兩説共ニ皆一理アリ、一概ニ其ノ是非ヲ斷定スルコト能ハス、要スルニ、公債ノ影響ハ募集ノ場合、方法及ヒ使用ノ方法ニ依リテ自ラ異ナラサルヲ得ス、若シ夫レ金融市場ニ於テ、資金餘リアリテ放資ノ途ヲ求ムル者多カラシカ、公債ヲ募集スルコト容易ニシテ害ナシト雖モ、之ニ反シテ金融逼迫ノ場合ニ於テハ、其ノ結果恐ルヘキコトナキヲ保シ難シ、以テ其ノ他ノ場合ヲ類推スルコトヲ得ヘシ。

第二、個人ノ經濟上ニ及ホス影響、由來公債ハ、現代ノ國民ノミニテ負擔スルコト能ハサル經費ヲ支辨スルニ方ツテ採用セラルルモノニシテ、後世ノ子孫ヲシテ其ノ一部ノ負擔ニ當ラシム、蓋シ現代ニハ、自カラ現代ノ事業アリ、後

世ニハ、自カラ後世ノ事業アリ、故ニ前者ノ負擔ヲ移シテ、悉ク後世ニ稼スル不可ナリト雖モ、而モ國家ノ性質上又止ムヲ得サル場合ナキコト能ハス、何ナレハ、國家ノ存在ハ永遠ノ利益ヲ期スルヲ以テ、其ノ經營施設モ亦現代ノカノミヲ以テ、成シ遂クルコト能ハサレハナリ。

或ハ曰ク、公債ノ負擔ハ貧者ニ歸シ、租税ノ負擔ハ富者ニ歸スト、是レ曾テ英國等ニ於テ、國債ノ増加ヲ非難セシ有力ナル一説ナリ、但シ、此ノ説ニハ全然肯スルコト能ハス、若シ租税ニシテ富者ノ負擔ニ歸スルモノ多ク、貧者ノ負擔ニ歸スルモノ少キトキハ、則チ其ノ説ノ如シト雖モ、現今ノ租税制度ハ必スモ然ラサルナリ。

第三、公債ノ社會ニ及ホス影響、人或ハ曰ク、公債ハ國家ノ發達ヲ鞏固ニト、而シテ其ノ理由トスル所ヲ索スルニ、若シ多數ノ國民ヲシテ國家ノ債主ノラシメンカ、彼等ハ常ニ其ノ生存發達ヲ希望シ且之ニ對シテ忠實ナルヘシト云フニ在リ、此ノ説タルヤ、一理ナキニアラス、佛蘭西ノ如キハ、其ノ共和政體ノ

布キテ以來、政府ハ常ニ此ノ方針ヲ採レリ。是レヲ以テ佛蘭西ノ公債ハ平民的ニ爲レリト云フモノアリ。其ノ意蓋シ自國ノ國債ヲ所有スル者ハ、單リ富有者ニ限ラスシテ、田夫野人ト雖モ、尙ホ之ヲ所有スルヲ云ヘルナリ。而シテ政府モ亦努メテ其ノ賣買讓渡ヲ容易ニシ、地方ノ人民ヲシテ、尙ホ且之ヲ購入スルニ不便ヲ感セサラシム。是レヲ以テ、佛國人民ハ國債ヲ以テ預金又ハ放資ノ手段ト認メ、苟クモ餘裕アル者ハ、公債ヲ買ヒ入レ、年々一定ノ利子ヲ得テ以テ満足スル者甚ク多シ。佛國ニ於テ、毎ネニ公債ノ應募者多ク、(外國債ニ對シテモ然リ)之ニ反シテ民間ニ於ケル新事業ノ左マテ起ラサルハ、多少此ノ理ニ基クモノナリ。

第三節 外國債及ヒ内國債

公債ノ種類ハ其ノ募集償還等ノ異ナルニ依テ、自ラ種種アリ。左ニ其ノ主ナルモノヲ擧ケン。

第一、内國債及ヒ外國債。此ノ區別ハ元外觀上ノ理由ニ基クト雖モ、而モ輕視スヘカラサルモノトス。其ノ募集ニ由テ生スル結果、利子ノ仕拂及ヒ償還若クハ政治上ノ關係ニ由ル影響ハ決シテ小ナラス。而シテ、外國債トハ、外國ノ銀行又ハ仲買等ノ手ヲ經テ募集サレ、悉ク又ハ主トシテ外國資本家ノ所有ニ係ルモノヲ云ヒ、内國債ハ之ニ反シテ内國ニ於テ募集セラレ、主トシテ内國人ノ所有ニ係ルモノヲ云フ。今先ツ其ノ募集ニ基ツク結果ノ差異ヲ察スルニ、内國債ハ常ニ勞銀ヲ低落セシムルヲ以テ、勞働者ノ不利ヲ招ク傾アルニ反シテ、外國債ハ却テ勞銀ノ騰貴ヲ惹起ス。故ニ産業ノ勃興ハ、内國債ヨリモ寧ロ外國債ニ據リテ企圖セラルルコト多シ。彼ノ北米合衆國ノ如キハ、二三十年前ニ至ルマテハ、常ニ債務國ニシテ、英吉利、佛蘭西等ノ資本家ハ、毎年ニ其ノ公債及ヒ企業ニ對シテ放資ヲ爲セリ。同國カ經濟上長足ノ進歩ヲ爲シタルハ、實ニ外國ノ資本ノ力ニ頼ルコト多シ。尤モ外國債ニ對シテハ、常ニ正金ヲ以テ利子ヲ仕拂ハサルヘカラス。償還ノ期限到來スルトキハ、殊ニ元金ノ償還ヲ爲スコトヲ要

スルカ故ニ國際上ニ於ケル貿易ノ平準ヲ紊スコトハ内國債ノ比ニアラス。故ニ外國債ノ募集ハ常ニ注意シテ生産的事業ニアラサレハ成ルヘク之ヲ避クルノ方針ヲ採ラサルヘカラス。

又外國債ニ對シテ利子ノ仕拂ヲ怠リ若クハ償還ヲ忽ニスルトキハ直ニ國際問題ヲ惹起シ外國ノ干涉ヲ來ス虞レ多シ。埃及、土耳其、希臘ノ如キ皆然リ。是レカ爲メニ外國債ノ不可ナルヲ主張スル者尠カラス。然レトモ外國債ト雖モ其ノ用途ニシテ宜シキヲ得ンカ、少シモ憂フルニ足ラス。外國債ノ爲メニ他國ノ干涉ヲ惹起スルハ外國債其ノ者ノ結果ニアラスシテ債權者ニ對スル債務ヲ完済セサルカ爲メナリ。現ニ前述ノ如ク、北米合衆國ノ如キハ從來外國ノ資本ニ頼テ以テ大ニ其ノ經濟上政治上ノ發展ニ資シタル例アルヲ見テモ之ヲ知ルヘシ。然リ而シテ其ノ國債ノ眞ニ憂フヘキハ戰爭ノ始メニ於テ敵國ノ爲メニ其ノ國債ヲ投ケ賣リセラルルニ依リテ苦メラルル一事ナリ。例ヘハ千八百七十六年ノ頃、阿富汗斯坦事件ノ爲メニ將ニ英露間ニ事アラントスルヤ、時

ノ英國ノ宰相ぐらつとんとンハ倫敦ノ金融市場ニ於テ露國債ヲ投ケ賣リセシメ、以テ露國政府ヲ苦シメタルコトアリ。露國ハ此ノ經驗ニ鑑ミテ遂ニ其ノ利害關係ノ最モ少キ佛國ト同盟スルニ至レリ。是レニ由テ觀ルトキハ時ノ古今ヲ問ハス、國ト國トノ戰爭ハ大資本家ノ爲メニ左右セララルルコトヲ知ルヘシ。

尙ホ以上ノ顛末ヲ詳説スレハ露西亞カ土耳其斯坦ヲ征討シ、ほかなざるかんご、たしけんご等ヲ征服シ、阿富汗斯坦ノ國境ニ入ラントスルヤ、英吉利政府ハ之ヲ坐視スルニ忍ヒス、直ニ反對ノ行動ヲ取レリ。而モ其ノ反對ノ手段タルヤ、兵ヲ以テ闘ハスシテ、坐カラ財ヲ以テ闘フノ手段タリキ。蓋シ當時ニ於テ露西亞ノ外國債ハ多ク倫敦ノ金融市場ニ於テ募集セラレ、英吉利ノ資本家ノ爲メニ多ク所有セラレタリ。而シテ開戦第一ノ準備ハ其ノ戰費ニ在リ、戰費ヲ支辨スルニハ到底國債ニ頼ラサルヘカラスシテ、之カ爲メニハ從來ノ國債價格ヲ維持スルノ必要アリ。露西亞ハ彼ノ露土戰爭ノ爲メニ其ノ財政大ニ紊亂

シ、常ニ輸出入ノ不平均ヲ訴ヘタル際ナリシカハ、戰爭ノ曉ニハ到底内國ノ財源ニ據リテ戰費ヲ支辨スルコト能ハス、外國ニ於テ其ノ資金ヲ調達セサルヲ得ス。是レぐらゝと云ふ、ノ機大ニ乘スヘシト爲シタル所ニシテ、氏ハ倫敦ノ金融市場ニ於テ、一齊ニ露國債ヲ投ケ賣リセシメ、以テ露國ノ公債價格ヲ暴落セシメタリ。是レ露國ニ取リテハ、實ニ大打撃ニシテ、公債ノ募集ハ多大ノ損失ヲ恐フニ非サレハ、到底成立スルコトヲ得ス。爰ニ於テカ、サスカニ強硬ナル露國ト雖モ、見ス見ス膝ヲ英國ノ前ニ屈セサルヲ得サリシナリ。其ノ後彼ノ三國同盟ノ起ルヤ、露西亞ノ之ヲ利用シテ佛蘭西ト接近スル手段ヲ取レルハ、畢竟之カ爲メナリ三國同盟ノ成立スルヤ、之ニ對シ共和國ト君主專制國トハ歎ンテ手ヲ握ルノ奇觀ヲ呈セリ。當時露國ニ於テハ、政治上佛蘭西ト同盟スルノ必要ナカリシモ、財政上ノ必要ハ遂ニ之ヲ驅リテ此ノ同盟ヲ結ハシメタリ。茲ニ於テ、グいつてノ大藏大臣ト爲ルヤ、直ニ同盟關係ヲ利用シテ、佛國資本案ノ歎心ヲ買ヒ以テ從來多ク英吉利ヨリ借リ入レタル比較的高利ノ國債ハ低利ヲ以テ

佛蘭西ヨリ借リ入レテ償還スルニ至レリ。而シテ露西亞ハ其ノ後更ニ獨逸ト交情ヲ温メ、獨國資本案ノ歎心ヲ得テ、同國ニ於テモ多額ノ國債ヲ募集シ、斯クシテ露國ハ獨佛兩國ノ資本ヲ利用スルヲ得タリ。之ヲ要スルニ、外國債ハ敵國ノ爲メニ利用セラレルトキハ、洵ニ危險ナルモノニシテ、深ク注意セサルヘカラス。然レトモ、其ノ理由ハ唯之ニ止マル。若シ以上ノ點ニ付テ注意セハ、外國債ト雖モ深ク憂フルニ足ラサルナリ。

既ニ説キシカ如ク、外國債、其ノ者ハ必シモ恐ルヘキニアラス。戰爭ノ場合ヲ除キ、唯恐ルヘキハ、其ノ約束ヲ履行セサルコトニ在リ。能ク約束ヲ遵守シテ利子ヲ拂ヒ元金ヲ償フトキハ、何等ノ恐ルヘキ所ナシ。土耳其、希臘、埃及等カ外國債ノ爲メニ若シタルハ、畢竟償還スルコト能ハサル程ニ多大ノ金額ヲ借リヌレ之ヲ償還セサルハナリ。故ニ前述セルカ如ク、外國債ハ宜シク生産的ノ費用ニ充ツヘキモノナリ。勿論戰爭ニテ止ムヲ得サルコトアルヘキモ、一般ノ場合ニ於テハ、常ニ其ノ心ヲ失ハサル様注意セサルヘカラス。

其ノ他尙ホ外國債其ノ者ノ恐ルルニ足ラサル事實アリ。是レ他ニアラス、内國債ト雖モ必スシモ常ニ内國債タラス、外國債ト雖モ亦必ラスシモ常ニ外國債タルニアラサルコト是レナリ。即チ外國債ニシテ内國債ト爲ルコトアルト同時ニ、内國債ニシテ外國債ト爲ルコトアリ。殊ニ後者ノ例ニ至テハ甚タ多シ例ヘハ、近年我國ノ募集セル内國債ハ、多ク倫敦其ノ他ノ資本家ノ買收スル所トナリ、内國債ノ一部ハ事實上既ニ外國債ニ化セシモノ少カラザリキ、然ルニ近時我國債ノ價格ハ海外市場ヨリハ寧ロ内國市場ニ高キヲ以テ嘗テ一旦輸出セラレシモノハ今ハ却テ逆輸入セラレルノ有様ナリ。文明國今時ノ金融ハ内外共通ノ狀勢ヲ呈スルカ故ニ、若シ我國ノ公債ノ價格下落シテ利子割合ニ良好トナレハ、縱令外國債ヲ募集セサルモ、内國債ノ外國債ト爲ルモノ多カルヘシ。單リ國債ニ止マラス、府縣債或ハ市債等ニ至リテモ外國ノ資本家ニ依テ買ヒ取ラレハ、亦外國債ト爲ルヲ以テ、國際貸借上ノ關係ヨリ觀テ、外國債ナルモノヲ極テ廣義ニ解釋シ、一國カ一國ニ對シテ負フ所ノ債務ナリトセハ、其

ノ金額ハ通常謂フ所ノ外國債ニ止マラサルナリ。現ニ北米合衆國ト歐洲トノ金融市場トハ、古ヘヨリ密接ノ關係アリ、合衆國ノ公債ハ毎ネニ英佛等ノ資本家ニ頼リテ募集セラレ、株式會社ノ株券モ、亦其ノ資本家ニ依テ所有セラレルコト多シ。由來合衆國ハ常ニ此ノ低利ノ外國資本ヲ利用シテ、以テ急速ノ發達ヲ遂クルコトヲ得タリ。若シ合衆國ニシテ、英佛ノ低利ノ資本ヲ利用セスンハ到底價值ノ間ニ於テ、彼ノ如ク債務國ヨリ債權國ニ一變スルコト能ハザリシナルヘシ。是ニ由テ觀ルトキハ外國債其ノ者ハ決シテ憂フルニ足ラス、唯其ノ運用ノ途宜シキヲ得ルト否トニ存スルノミ。

各國ニ於ケル國債政策ノ趨向ヲ察スルニ、漸次内國債ヲ採ラントスルノ傾向アリ。加之會テ外國ニ於テ募集サレタル外國債ト雖モ、漸ク内國人ノ所有ニ歸リ來ルハ、北米合衆國及ヒ獨逸等ニ於ケル實況ナリ。是レ會テ資本ノ缺乏ル國家カ、其ノ後ニ於ケル經濟上ノ進歩ニ依リ、自ラ外國債ヲ購入スルノ餘裕ヲ生シタルヲ以テナリ。殊ニ佛蘭西ノ如キハ全ク、内國債主義ヲ採リ、其ノ募集

或ハ應募ノ手續上、外國資本家ヲ斥ケテ、内國ノ資本家ヲ利スル方針ヲ取レリ
 是レ共和政府トシテ、其ノ政體ノ保護上止ムヲ得サルニ出テ、總テノ國民ヲシ
 テ、國債ノ所有者タラシメ、以テ常ニ政府或ハ政體ニ對シテ多少ノ同情ヲ有セ
 シメントスルニ在リ。又英吉利ハ、法律上別ニ内國債ヲ採ルノ明文ヲ設ケサレ
 トモ、實際ニ於テ内國債主義ヲ採レリ。何トナレハ、其ノ募集上採用スル所ノ國
 債原簿ハ、内國人ニ非サレハ、登録スルコト困難ナレハナリ。英國ニ於テ、通常國
 債ヲ募集スルトキハ、英蘭銀行ニ國債ノ原簿ヲ備ヘ置キ、應募セントスル者ハ、
 自ラ住所ト姓名トヲ名乘リ、其ノ原簿ニ姓名ノ記入ヲ乞フヲ以テ足レリトス
 ルコトアリ。是レヲ以テ、勿論外國人ノ募集ヲ禁スルニ非サルモ、事實上ニ於テ、
 内國人ニ便利ノ方法ヲ以テ募集スルモノト云ハサルヘカラス。

外國債ニ對シテハ、擔保ヲ提供シ若クハ保證ヲ付スル場合多シ。例ヘハ土耳
 其ノ千八百八十一年、八十五年及ヒ八十七年ノ外國債ノ如キ、希臘ノ千八百八
 十七年せるびあノ千八百八十四年及ヒ八十五年ノ外國債ノ如キ、埃及ノ千八

百七十六年、七十七年、七十八年、八十五年、墨士哥ノ千八百九十年ノ外國債ノ如
 キ、皆關稅、鐵道若クハ煙草專賣ノ收益ヲ以テ其ノ擔保ニ供セリ。日露戰役ノ際
 ニ於ケル我國ノ外國債及ヒ支那ノ國債ノ一部ノ如キ、亦然リ。即チ我國ニテハ
 第一ニ海關稅收入、第二煙草專賣金ヲ以テ其ノ擔保ニ供セルコトハ世人ノ
 耳目ニ新ナル所ナリ。

第四節 流動公債

以上内國債ト外國債トニ就キ其ノ大體ヲ說明セシカ、更ニ進ンテ、公債又
 國債ヲ管理スル止ニ於テ必要ナル種類ヲ説カシ。要スルニ此ノ種類ハ公債、
 募集及ヒ償還等ニ關係シ、之ニ依リテ、自ラ公債ノ募集、管理、償還等ノ概要ヲ知
 ルコトヲ得ヘシ。請フ先ツ流動公債ヨリ説明セン。

流動公債 流動公債トハ會計上ノ都合ニ依テ財政當局者カ、其ノ附與又ハ
 委任ナレタル權限内ニ於テ、自己ノ責任ヲ以テ一時資金ヲ融通スルヲ云フ。從

テ其ノ時期ハ短カク時トシテハ一箇月ニ過キサレコトアリ、又長クトモ一箇年ヲ超ヘサルヲ常トス。但シ佛蘭西ニ於テハ、年年歳入ノ不足ニ迫ラレテ、往往二年三年餘ニ亘ル流動公債ナキニアラス。故ニ此ノ種ノ流動公債ニ至テハ、其ノ名ハ流動公債ナルモ、其ノ實際ニ確定公債ト爲レルモノトス。元來流動公債ナルモノハ、其ノ償還ヲ約束シタル短期期間内ニ於テ償還サルヘキモノニシテ、通常ハ其ノ募集サレタル(或ハ借リ入ラレタル)財政年度内ニ於テ償還セラレヘキ成算アルヲ要ス。流動公債ノ主ナルモノ、左ノ如シ。

一、預金。例ヘハ郵便貯金、官吏ノ身元保證金、租税ノ前納金(我國ニハ、殆ト此ノ例ナキモ、他國ニハ之アリ、未タ納期ノ來ラサルニ先チ納税者ノ都合ニ由リテ前納スルモノヲ云フ)官吏ノ遺族扶助料繰入金郵便貯金ノ如シ。

二、大藏省證券。大藏省證券ハ、政府カ一時ノ用ニ充ツル爲メニ、財政當局者ノ名ヲ以テ發行スル一種ノ手形ニシテ、幾分ノ利子ヲ仕拂フヲ常トス。去レハ明治十七年九月第二十四號布告第一條ニ據ルニ、大藏省證券ハ、出納上一時使

用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス(トアルヲ見テモ、之ヲ知ルヘシ)。

凡ソ歳入及ヒ歳出ハ、理想上其ノ時期ノ相伴フヲ要スレトモ、一國ニ於ケル經濟事情ハ必ラスシモ之ヲ容サス。是レヲ以テ、經費仕拂ノ必要アルニ方ツテ未タ歳入ノ是レナキ場合アリ。例ヘハ我國ノ如キ會計年度ノ開始後數箇月ノ間多クノ支出ヲ爲ス必要アレトモ、歳入ノ大部分ハ九月乃至十月以後ニ在リ此ノ間ニ於ケル歳出入ノ調和ヲ圖ル爲メ一時ノ借入金ヲ以テ其ノ急ニ應ズルモノトス。即チ大藏省證券ヲ發行シ、日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシメテ、以テ必要ナル資金ヲ融通スルナリ。之ヲ獨逸ノ例ニ徵スルニ、曾テハ其ノ軍事費ノ六割三分ハ冬期ニ於テ支出スルヲ要シタルモ、其ノ歳入ハ之ニ反シテ冬期以後ト爲ルモノ尠カラス。是レ各國共ニ齊シク大藏省證券ノ必要ヲ感スル所以ナリ。是レヲ以テ大藏省證券ハ、一方ニ於テハ貨幣ノ代用ヲ爲シ、種種ノ仕拂充ツルコト、恰モ政府發行ノ紙幣ニ異ナルコトナキト同時ニ、一方ニ於テハ利子ヲ仕拂フ一種ノ手形又ハ資金ノ借用證書ナリ。我國ノ例ニ據テ見ルニ、六月、

八月、十一月ノ三箇月ヲ除クソ外ハ歳出ニ比シ其ノ歳入ハ常ニ不足セリ、毎年三月ノ收入ハ一時ニ巨額ニ達シ、此ノ時始メテ前前ヨリノ不足ヲ補フノ有權ナリ。

三、政府發行ノ紙幣。今ヤ紙幣ノ發行權ハ中央銀行ニ委セラレ、若クハ附與セラルルヲ例トユレトモ、面モ金融機關ノ設備完カラサル國ニ於テハ、政府ハ尙ホ之ヲ以テ一種ノ財源ト爲シ、續シ財源トセサルモ、尙ホ資金融通ノ手段ト爲ス國ナキニアラス、其ノ之ヲ發行スルニ於テハ本ヨリ國家ノ債務ト云ハサルヘカラス。

第五節 確定公債

確定公債トハ、其ノ始メ豫算上之ニ對スル歳入ノ準備アルモノヲ指シタル名稱ナルカ今ヤ之ニ反シテ其ノ償還期限長クシテ、債權者ニ於テ其ノ償還ヲ請求スルノ權利ナキモノ、若クハ縱令是レアルモ多少制限セララルルニ止マル

モノヲ云フナリ

一國ノ信用未タ發達セサルニ方リテハ、償還期限ハ自ラ短ク、且其ノ方法關シテモ細密ノ契約アルヲ常トス。之ニ反シテ十分信用ノ高キ國ニ於テハ、償還ノ方法及ヒ期限ニ關シ、債權者ニ對シテ豫メ約束セサルコトアリ、例ヘハ、小國ニ於テ始メテ用ヒテラタル所ニシテ、既ニ千六百八十六年ニ於テ議院ノ承諾ヲ經スシテ公債ヲ募集スルコト能ハサル原則ハ認めラレタリト面シテ、議院ノ承認アルニ方リテヤ、其ノ償還及ヒ利子ノ仕拂ニ充ツヘキ租稅即チ歳入ヲ要セリ、是レ所謂確定公債ノ起原ナリ、面シテ千七百五十一年ニ及ンテ、其ノ以前ニ募集セシ各種ノ公債ヲ整理シ、之ヲ稱シテ「こんそりでーて」ト云フ

公債ノ概念及ヒ種類 確定公債

ト云ヒ、其ノ後單ニ「こんそーる」ノ名稱ヲ以テ一般ニ了解セララルニ至レリ。
確定公債ノ種類ハ、其ノ募集管理及ヒ償還ノ方法ニ依リテ種々アリ。其ノ主
ナルモノ左ノ如シ。

一、有期臨時仕拂公債、即チ募集或ハ借入ノ始メニ於テ、一定ノ償還年限ヲ
定メ、財政上ノ都合ニ依リ、其ノ年限内ニ於テ臨時又ハ隨時ニ償還シ得ル公債
ヲ云フ。

二、有期定期仕拂公債、詳言スレハ、募集或ハ借入ノ始メニ於テ、一定ノ償還
年限ヲ定メ、其ノ年限内ニ於テ年年若クハ時期ヲ限リテ定期ノ償還ヲ爲ス公
債ヲ云フ。例ヘハ維新ノ當初起債セル一割五分付外債ハ毎月之ヲ償還セシカ
如シ。是レヲ以テ、第二ハ第一ニ比シテ不便ナリ。何トナレハ、縦令政府財政上ノ
都合悪クトモ、尙ホ年年一定ノ償還ヲ爲ササルヘカラサルヲ以テナリ。去レハ
曾テ此ノ有期定期仕拂公債ヲ採リシ國ニ於テモ漸ク有期臨時仕拂公債ニ替
ユルモノ多シ。我國ノ如キ又其ノ一例ナリ。

三、有期一時仕拂公債、即チ其ノ名稱ノ如ク、償還ノ年限ノ到ルト同様ニ一
時ニ償還スル公債ヲ云フ。各國ノ公債ハ曾テ此ノ種類ニ屬シタルモノ多カリ
シカ、其ノ債權者ニ便利ナルカ爲メ尙ホ此ノ種ノ公債ヲ存スル國ナキニアラ
ス。凡ソ信用ノ減退スル國ハ暫ラク措キ、其ノ進歩スル國ノ公債ハ多ク騰貴ス
ルヲ常トス。故ニ資本家カ其ノ募集及ヒ償還ノ間ニ於ケル公債價格ノ差ヲ利
センコトヲ欲スルハ人情ノ自然ナリ。是レ此ノ種ノ公債ノ資本家ニ歓迎セ
ルル所以ナリ。

四、永遠公債、即チ其ノ名稱ノ如ク、政府ハ募集或ハ借入ノ始メニ於テ、償還
者ニ對シ其ノ償還ノ時期ヲ約束セサルモノヲ云フ。但シ必スシモ償還セサ
ニアラサルモ、唯年限ヲ期セス、政府ノ財政上ノ都合ニ依リテ、何時ニテモ之
償還スルコトヲ得ルモノナリ。是レ此ノ名稱アル所以ナリ。佛蘭西ノ如ク資本
民間ニ充實シ且政府ノ信用ニシテ完キ國ニ於テ、始メテ之ヲ募集シ得ヘシ。

第六節 年金及ヒ「とんちん」

其ノ他確定公債ト認ムヘク而モ通常之ト趣キヲ異ニスルモノハ、年金ナリ
 英吉利ニ於テハ、嘗テ此ノ方法ニ依リテ公債ヲ募集シタル例尠カラサリシモ
 其ノ後國債ノ額多大ト爲ルニ及ヒ、其ノ管理法ノ複雑ナルカ爲メニ漸ク之ヲ
 廢止セリ、此ノ種ノ公債ハ、謂ハハ年金付ノ公債ニシテ、政府ハ其ノ借リ入レタ
 ル金額ニ對シテ、年年一定ノ利子及ヒ償還基金ヲ併セテ之ヲ仕拂フモノナリ
 寡婦、老人、學生等ニ取リテハ、兎ニ角便宜ノ放資方法タルヲ失ハス。
 年金ニハ終身年金、有期年金及ヒ「とんちん」法ノ三種アリ、終身年金ハ、其ノ名
 ノ示スカ如ク、債權者ノ一生ヲ約シテ、年年一定ノ利子ト償還ノ基金ヲ併セ仕
 拂フモノナリ、故ニ此ノ種ノ年金ハ保險ノ一種トモ云フヲ得ヘシ、何トナレハ
 債權者短命ナレハ、政府ノ利益ト爲リ、之ニ反シテ長生スルトキハ、政府ノ損失
 ニ歸スルヲ以テナリ、而シテ其ノ募集ノ始メニ當リ、多クノ債權者ヲ募集スル

カ故ニ、彼ノ「ぶろばびりち」即チ「た」から「さ」ノ法則ニ由リ大體上損失ヲ招
 カサルコトヲ期スルナリ、又有期年金モ、其ノ名ノ如クニ、一定ノ年限内ニ於テ
 償還シ盡スモノヲ云ヒ、此ノ種ノ年金ハ學生等ニ取リテ便利ノ放資方法ナリ
 例ヘハ卒業マテ年年一定ノ元金ト利子トヲ受取ルコトヲ得ルヲ以テ、最モ安
 心ナルヘシ。

「とんちん」法ト云フハ嘗テ伊太利人「とんちん」ノ按出セルカ爲メ、此ノ名アリ
 其ノ方法ハ先ツ一定ノ人員ヲシテ一定ノ公債ノ募集ニ應セシメ、而シテ政府
 ハ其ノ拂込ミタル金高ニ應シテ、年々一定ノ利子ト償還基金トヲ仕拂フモノ
 トス、然ルニ應募者即チ債權者ニシテ死亡スレハ其ノ年金ノ止ムハ勿論ナ
 カ、此ノ金額ハ之ヲ政府ノ利益ト爲サスシテ殘存者ニ配當スルナリ、之ヲ以テ
 其ノ最モ長生セル一人ハ、其ノ應募者全體ノ年金ヲ受領スルコトヲ得ヘシ、元
 來何人ト雖モ自己ノ早死ヲ豫起セサルハ人情ノ常ナリ、「とんちん」法ハ此ノ人
 性ノ誇浮ヲ利用シテ割合ニ低廉ナル利子歩合ニテ募入スルコトヲ得ルナリ、

以上ハ確定公債ノ種類ニシテ、公債ノ多クハ確定公債ニ屬ス、而シテ我國ニ於テ從來採用セル公債ハ、有期臨時仕拂公債ニシテ、戰爭中ニ募集セル短期ノ公債モ亦此ノ法ヲ採用セリ、然レトモ、此ノ方法タルヤ政府ニ取リテハ便利ナレトモ、債權者ハ餘リ之ヲ歡迎セス、何トナレハ、何時償還セラルルヤ豫定スヘカラス、財政ノ都合好良ナルカ將タ經濟界顧調ニシテ金利低下スルニ際シテ常ニ償還セラルルヲ以テナリ、從テ又此ノ種ノ公債利子ハ割合ニ高率ナリ、

第三十二章 公債ノ募集、發行及ヒ償還方法

第一節 公債ト財政ノ調節

昔時ハ、個人ノ經濟ニ於テ、負債ヲ起スハ殆ト一ノ惡事ナルカノ如ク認メラレタル時代アリ、之ト同様ニ數十年前迄ハ、亦公債或ハ國債ヲ起スヲ以テ忌ムヘキコトト認メ、縦シ忌ムヘキコトニアラストスルモ、歎フヘキコトニアラスト爲シ、若シ能フヘクンハ之ヲ排斥セント主張シタル學者政治家等少カラス、勿論今日ト雖モ、負債ノ有無何レント云ヘハ其ノ存セサルヲ可トスルモ、而モ實際ノ事情及ヒ關係ハ、各國ヲシテ常ニ止ムヲ得スシテ公債政策ニ頼ラシムルコトト爲レリ、而シテ今日ニ及ヒテハ公債ハ一國ノ財政上必要缺クヘカラサル手段タリ、茲ニ所謂「ねせつさりー、いぐるす」トハ果シテ此ノ謂カ是レヲ以テ財政上政治家ノ之ニ對シテ注意ヲ拂フコトモ亦昔日ノ比ニアラス、殊ニ外國債ニ至リテハ、其ノ關係スル所廣ク、影響ノ及フ所モ亦大ナルヲ以テ、債務國タ

ル露西亞ノ如キハ歴代ノ内閣常ニ重キヲ之ニ置ケリ。彼ノ千八百九十四五年以後、同國カ世界ノ經濟及ヒ政治上ニ一層重キヲ爲スニ至リシハ、公債ノ管理殊ニ外國債ノ募集ニ成功センカ爲メナリト云フテ可ナリ。之ヲ以テ、一般ニ世界金融ノ中心タル倫敦、又其ノ中心タラサルモ債權國タル佛蘭西、獨逸、合衆國ノ金融市場ニ、常ニ大藏省ノ財務官ヲ派遣シテ、世界金融ノ大勢ニ注意スルノ必要アリ。何トナレハ、若シ一旦注意ヲ怠ランカ、當ニ公債ノ下落ヲ惹起シテ國家ノ信用ヲ傷ツクルノミナラス、延テ内國ノ經濟界ニ影響スルコト尠カラサルヲ以テナリ。左レハ公債ノ管理及ヒ募集ニ成功スルトセサルトハ、一國ノ政治上財産上ニ於ケル信用ノ鞏固ナルト然ラサルトニ基クヤ多シト雖モ、又財政當局者其ノ人ヲ得ルト得サルトニ存スルコト多シ。財政當局者ハ常ニ世界ノ金融ノ大勢ニ注意シテ、之ヲ利用スルノ策ヲ講セサルヘカラス露國ノ如クテ伊太利ノるざつち一カ財政ノ整理ニ成功セシハ、他ニ多少ノ原因ナキニシモアラサルモ、各國ノ資本家ヲ利用セシニ依ルコト多シ。露西亞ニテハ、財政代

理官ナルモノヲ倫敦、巴里、伯林、紐育等ニ流出シ、高額ノ俸給ヲ與ヘテ優遇シ帝國第一流ノ士ヲ以テ之ニ任ス。財政代理官ハ常ニ自國公債ノ一上一下ニ注意シ、其ノ下落セントスルトキハ、之ヲ買ヒ入レテ其ノ價格ヲ維持シ、又募集スル場合ニハ、巧ミニ資本家ヲ説得シテ有利ノ條件ヲ留保スル等、種種ノ手段方法ヲ講スルナリ。

伊太利ノ大藏大臣タリシるざつち一ハ、政治家トシテ又財政家トシテ著名ノ士ニシテ、能クくりすび一カ三國同盟締結後ニ生セシ財政上ノ破綻ヲ繕、財政ヲ整理シ、以テ今日ノ伊太利アルニ至ラシメタリ。今伊國カ財政ノ困難ノ極メタル原因ヲ考フルニ、主トシテ外交及ヒ軍事上ノ關係ニ基ツク。元來くりすび一カ三國同盟ヲ締結シタルハ、伊太利國民ノ企望ニアラスシテ、寧ロ腐敗セル一部貴族ノ野心ニ基キ、其ノ野心ヲ迎ヘントシテ、之ヲ企テタルナリ。而シテ財政上ノ負擔ハ、是レカ爲メニ増加シ、同時ニ外國殊ニ佛蘭西トノ貿易ハ大ニ衰頽シ、爲メニ非常ナル苦境ニ陥リ、其ノ結果伊太利ハ殆ント破産ヲ免レサ

ラントセリ。此ノ點ハ、人ノ或ハ誤解トシテ現時ノ我國ト比較スル所ナリト雖モ、然モ我國ノ如キハ、決シテ悲觀スルニ及ハス。今暫ラク農業ニ付テ見ルモ、我國米穀ノ生産高ハ、一年平均四千七八百萬石ニシテ、尙ホ將來農業者ノ精勵ト農業方法ノ改良トニ由テ增收スルコトヲ得ヘシ。今假リニ之ニ由テ二割ヲ増加ストセハ、其ノ價格ハ優ニ一億五千萬圓以上ニ達スヘシ。其ノ他工業、商業ニ至リテモ亦然リ。之ヲ以テ一億ノ公債利子ノ負擔ノ如キハ左マテ憂フルニ足ラサルヘシ。其ノ整理ノ實ヲ舉タルト否トハ、財政當局者ノ手腕ニノミ俟ツヘカラス。國民タルモノ勸勉事ニ從ヒ、儉素其ノ身ヲ奉シ、以テ國富ヲ致スニ努力セサルヘカラス。曩時伊太利ニ於テふえらりするざつちー等ノ財政ヲ整理スルニ當リ、政府ト國民トノ忍耐ハ、今尙ホ傳唱セラルル所ナリ。我國同胞タルモノ亦同様ノ覺悟ヲ要ス。

第二節 公債募集方法

公債又ハ國債ノ募集方法ニハ、種々アルモ、其ノ最モ簡易ナルハ政府カ直接ニ資本家ニ交渉シテ募集スル方法ナリ。例ヘハ我國ニ於テ中央銀行タル日本銀行ヲシテ一手又ハ直接ニ國債ヲ引キ受ケシムルカ如シ。又時トシテハ政府ハ豫メ公告シテ以テ一般公衆ヲシテ其ノ募集ニ應セシムルニトアリ。日清戰役前ノ我國ノ公債ハ、多ク此ノ方法ニ據リテ募集サレタリ。日露戰役ノ際募集額ノ巨大ナルカ爲メニ、當時ノ財政當局者ハ全國ノ主ナル銀行家ヲ召集シ、交渉シテ以テ其ノ發行ノ方法等ヲ協議シタルコトアリ。斯クノ如キハ、直接ニ政府カ募集スルト云ハンヨリ、寧ロ豫メ銀行家ノ團體ヲシテ之ヲ引キ受ケシムル形跡アリ。略言スレハ、間接ニ募集セルモノナリ。又我政府カ外國債ヲ募集スルニ方リ、橫濱正金銀行及ヒ英吉利、佛蘭西、獨逸、北米合衆國等ノ銀行家又ハ資本家ヲシテ、其ノ國債ノ發行ヲ引キ受ケシメ、彼等ハ所謂「しんじげーど」ヲ組織シテ、一方ニ於テハ一定ノ利子及ヒ發行價格ニ依テ、日本政府ノ公債ヲ引キ受クルト同時ニ、他方ニ於テハ、一般金融界ニ之ヲ賣リ出セリ。近來五分利内區

債ヲ四分利内國債ニ借り替ヘルニ當リ政府ハ所謂引受銀行團ナルモノヲ組織セシメ安田銀行等其ノ中堅トナリ一時其ノ成功ヲ謳歌シタルコトアリキ。引受銀行等ハ發行ノ手数料ヲ求ムルノミナラス、賣出價格ニシテ引受又ハ發行價格ニ比シ騰貴スルトキハ、其ノ差額ヲ利スルコトヲ得ヘシ。是レヲ以テ、國債殊ニ外國債ノ募集ニ關シテハ、財政當局者ノ手腕ノ關係スル所多キヲ知ルヘシ。

第三節 公債ノ發行

公債又ハ國債ノ發行ニ關シテ、第一ノ問題ト爲ルハ、利子歩合ニシテ、其ノ高低ハ、國家ノ經濟上及ヒ政治上ニ於ケル地位ニ依リテ、自カラ異同アリ。國富ミ兵強ケレハ利子歩合ハ、自カラ低ク之ニ反シテ、國富未タ興ラス兵亦弱ケレハ利子モ、自カラ高シ。加之、時時ノ經濟上及ヒ政治上ノ關係ニ由テ變動スルヲ免レズ。例ヘハ開戦又ハ平和ノ希望、償還期ノ遠近又ハ風説或ハ利子仕拂ノ前後

等ハ、亦公債ノ利子ヲシテ一高一低セシムルモノナリ。現今強大國ノ國債ノ利子歩合ハ、平常高キハ五分、低キハ二分時トシテハ一分七厘五毛ノ間ニ在リ。然レトモ、其ノ各國公債ノ利子歩合ハ、必ラスシモ其ノ實際ト合致セルモノニアラス。何トナレハ、其ノ發行價格同シカラサルヲ以テナリ。

抑、發行價格トハ、公債ヲ發行シ又ハ賣出スニ方テ、實際政府カ得ル所ノ收入額ナリ。之ヲ稱シテ手取り額ト云フ尤モ間接發行法ニ據レハ、發行價格ト手取り額トハ一樣ニアラス。何トナレハ、引受人又ハしんぢげーとハ、發行價格ヨリ一定ノ金額ヲ手数料トシテ受取リタル後、其ノ殘額ヲ募集國ノ政府ニ引キ渡スヲ以テナリ。然リ而シテ、此ノ發行價格ハ、利子歩合ノ高低ト相伴フモノナリ。詳言スレハ、利子高ケレハ發行價格モ、自カラ高ク、利子低ケレハ發行價格モ、自カラ低シ。

發行價格ニ二種アリ。一ヲ平價發行價格ト云ヒ、一ヲ呼價發行價格ト云フ。發行ノ方法ニ付テ言ヘハ、一ハ平價發行法ト云ヒ、一ハ呼價發行法ト云フ。單ニ發行

務者タル政府ノ都合ヲ謀レハ平價發行法ヲ採用スルヲ可トセンモ、資本家ハ之ニ反シテ常ニ呼價發行法ヲ歎クノ傾向アリ、何トナレハ、彼等ハ其ノ償還ノ際、呼價發行ニ依ル出資額ト平價ニ基ツク償還金額トノ差ヲ利セントスルヲ以テナリ。

第四節 公債ノ償還

次ニ償還ノコトヲ一言スヘシ、償還ノコトタルヤ、事實上償還スル手續ハ頗難ナルヘキモ、償還夫レ自身ニ別ニ困難ナル理論ノ存スルニアラス、蓋シ借リ入レタル負債ハ、之ヲ償還スルヲ要スルコト言フヲ俟タスト雖モ、現今ノ如ク各國競争ノ結果國費日ニ多端ナル傾キアルニ方リテヤ、國債ノ償還ハ殆ト不可能ノコトニ屬ス、左レハトテ、不可能ナルカ故ニ之ヲ廢止スルコトハ固ヨリ爲シ能ハス、故ニ國ニ依テハ、一方ニ於テ公債ヲ募集スルト同時ニ、他方ニ於テハ常ニ歳入ノ一部ヲ以テ之カ償還ニ充テツツアルノ例尠カラス。

永久ノ償還ト云フ能ハサルモ、財政ノ整理又ハ國債ノ負擔ヲ減スルカ爲メニ有效ナル手段ハ、所謂借替コンソリデーションナリ、即チ償還ノ期限到來スルニ先タチ、高利ノ國債ヲ低利ノ國債ニ借替フルコト是レナリ、露國ノグらグーイッテ伊國ノるるざざ、ちち一等ノ財政整理ハ、主トシテ此ノ方法ニ據レリ、然リ而シテ國債ノ償還方法トシテ、永ク英國ニ於テ採用サレタルハ、所謂減債基金ノ制度ナリ、此ノ制度タルヤ、政府ハ一般會計ヨリ年々一定ノ資金ヲ繰入レ、之ヲ積ミ立テテ以テ償還ノ用ニ充ツルニ在リ、其ノ初メニ當リテヤ政府ハ年々償還シタル公債ノ利子ヲ積ミ立テ且ツ之ヲ利殖シテ以テ終ニ償還スルヲ期シタリキ、故ニ債權者ニ取リテハ、必ラス償還モラルル希望ヲ存スルモ、之ニ反シテ債務者タル政府ニ取リテハ不便ナルヲ免レズ、何トナレハ、財政ノ緩急ニ關セヌ常ニ一定ノ資金ヲ積ミ立テサルヲ得サレハナリ、國ニ戰亂又ハ凶荒アルハ、恰カモ人ニ病アルカ如ク、何時其ノ積ミ立ニ困難スルコトアルヤ測ルヘカラス、而カモ尙ホ政府ハ之ヲ忍ハサルヘカラス、故ニ英吉利ニ於テモ漸ク之ヲ廢止セルカ、彼ノ南阿戰爭

ノ際ニ至ルマテハ、尙ホ多少存在セリ。然ルニ我政府ハ、日露戦役後外國債ヲ整理スル目的ヲ以テ明治三十九年三月一日法律第六號ヲ以テ國債整理基金ヲ設定セリ。其ノ特別會計法第二條ニ依レハ、一般會計ヨリ繰入ルヘキ資金中、明治三十七八年戦役ニ關スル經費支辨ノ爲メ發行シタル國債及ヒ其ノ借替ノ爲メニ發行シタル國債ニ關スル分ハ、年額一億一千萬圓ヲ下ルコトヲ得サルモノトストアリ。故ニ我政府ハ、三十七八年戦役ノ爲メニ募集シタル國債ヲ償還スルマテハ如何ナル事情ノ存スルニモ關セス、常ニ一億一千萬圓ヲ整理基金トシテ支出セサルヘカラス。尤モ該金額以上ヲ償還ノ爲メ充當スルトセサルトハ政府ノ勝手ナリト雖モ、近年國債價格ヲ維持シ若クハ之ヲ高ムルノ必用上間々一億五千萬以上ニ達セシコトアリ。現ニ明治四十四年度ニ於テハ國債整理基金ニ壹億四千七百六十五萬七千三百三十七圓ヲ計上セリ。

第三十三章 日本及ヒ歐米主要國ノ國

債概況

第一節 帝國國債史ノ大要

本邦ノ國債史ハ王政維新ノ當初ヨリ明治十九年整理公債條例制定ニ至ル迄ヲ第一期トス。當時維新日猶ホ淺ク百事釐革ノ緒ニ就カサルモノ多ク、當ニ起債條件ノ不利ナルノミナラス、公債ニ關スル諸般ノ規定モ備ハラズ。云ハハ國家又ハ政府ノ信用モ極テ薄弱ナリキ。而シテ第一期ハ亦之ヲ前後ノ二期ニ分ツヘク前期ハ維新ノ初ヨリ西南戰爭ノ時ニ至リ、其ノ以後ヲ後期トナス。第二期ハ十九年整理公債條例制定ノ時ヨリ日清戦役ノ始ノ迄、即チ明治二十一年一月迄トシ、此ノ間起債條件ハ改善セラレ、國債ノ制度規定ハ整理セラレ、甘ノ價格ハ從テ騰貴シ、政府財政ノ信用ハ大ニ高マリタリ。此ノ時期ニ於テ新

募集發行セラレシ國債トテハ極メテ少ナク、亦設令發行セラレシモノモ皆生産的用途ニ充テラレタルヲ見ル、第三期ハ日清戰役ノ當初ヨリ日露戰役ノ終了即チ明治三十八年ノ終リニ亘リ、純ラ軍事又ハ戰爭ノ影響ヲ受ケ國債ノ增加ハ此ノ時ヲ以テ最トス、而シテ明治三十九年以後ハ第四期ニ屬シ、彼ノ國有鐵道等ノ爲メ發行セラレシ國債ノ額少カラスト雖モ、大抵是等ハ生産事業ノ爲メ起債又ハ發行セシ所ニシテ、要スルニ國債ノ整理時代ト稱スルヲ得ヘシ、維新以來四十有餘年ノ間ニ於テ國債ノ増加セシコト非常ナリト雖モ、而モ國家ノ信用モ從テ高マリ、其ノ初メ外國債ノ如キハ倫敦市場ニ於テ一割五分ノ高利ヲ以テスルモ、猶ホ意ノ如ク募集スルコト能サルコトスラアリキ、左ニ帝國國債増加ノ趨勢ヲ示サン、

明治三年	四八八〇〇〇〇	明治五年	二八〇五六〇〇〇
明治七年	四六九一九〇〇〇	明治十年	二三六三四〇〇〇〇
明治十五年	二四〇五一〇〇〇〇	明治二十年	二七四七七二〇〇〇〇

明治二十五年	二七七八九四〇〇〇	明治二十八年	三九二一二三三〇〇〇
明治三十年	四一一七八四〇〇〇	明治三十三年	五二六六六四〇〇〇
明治三十六年	五九五八一〇〇〇	明治三十七年	一一一四九九三〇〇〇
明治三十八年	二二六一二〇七〇〇〇	明治三十九年	二三三九四四四〇〇〇
明治四十一年	二二五七三四八〇〇〇	明治四十三年	二六三〇一六一六一

第二節 帝國國債ノ現況

是レニ依テ之ヲ見レハ明治三年ニ比シ、其ノ四十年後ニ於ケル明治四十二年ノ國債額ハ殆ント五十四倍ノ増加ヲナセリ、更ニ明治四十三年度十二月末ニ於ケル國債現在額ハ左ノ如シ、

種別	債額	起債額	償還額
國債總額	二五〇二六二六二七	五〇二一九七三	四三三六六四六
	二五〇二六二六二七	二五〇二六二六二七	二五〇二六二六二七

日本及ヒ歐米主要國ノ國債概況 帝國國債ノ現況

內國債	一一二九四三	八四〇	一一四七二二	二九五六七二	四三三六
舊鐵道公債	二四三九九	五〇	二六三四五四	二九四九	五〇〇
鐵道公債	五五八九〇〇	五〇〇	四二六二〇〇	三七〇七	五〇〇
事業公債	一〇八三二〇	〇	六九二一四〇〇	五八三八〇〇〇	〇
北海道鐵道公債	八一五〇	〇	四〇四四九〇〇	三三三七〇	〇
臺灣事業公債	三八五六五〇	〇	三二二八八五	三一九七二五	〇
舊鐵道會社債務整理公債	二七六三八五〇	〇	二七六三八五〇	〇	〇
沖繩縣諸公債	一五九五五〇	〇	〇	一五九五五〇	〇
救恤公債	五九五〇〇	〇	〇	五九五〇〇	〇
鐵道買收公債	四七三〇三二	〇〇〇	四七五二〇四	二二二五五〇	〇〇〇
國庫債券整理公債	二九四二五二〇	〇	二九九二一五〇	五七五九〇〇	〇〇
臨時事件公債	二八〇一九〇七〇	〇	二九〇四七八五〇	一〇二九七一五〇	〇〇
恩賜公債	七五八一〇〇	〇	〇	七五八一〇〇	〇〇
四分利公債	二七五五五〇〇	〇	六六八〇一五〇	二〇八六九五〇〇	〇〇
國庫債券	六五八九三七五	〇	一〇八一五七七五	四〇〇〇〇〇	〇〇〇〇
舊鐵道會社債務	三〇〇〇〇	〇	四〇〇〇〇	〇	〇
舊韓國政府債務	一一六八二五	〇	〇	一一六八二五	〇

六二六

海軍公債	〇	七一九九〇〇	〇	七一九九〇〇
整理軍公債	〇	一五一四六九〇〇	〇	一五一四六九〇〇
軍事公債	〇	一〇八五二六六五〇	〇	一〇八五二六六五〇
高整理公債	〇	二五九九〇〇	〇	二五九九〇〇
外國債	一四七二七六六八	二六五五四九	二八二五四〇〇〇	〇
第一回四分利付英貨公債	九七六〇〇〇〇	九七六〇〇	〇	〇
第二回四分利付英貨公債	二九二六六九四九七	二九二六六	四九九七	〇
第三回四分利付英貨公債	二九二八八八九九	二九二八八	八九九	〇
第四回四分利付英貨公債	二四四〇七三〇四七	二四四〇七	二八二八	〇
五分利付英貨公債	二四四〇七三〇四七	二四四〇七	二八二八	〇
四分利付佛貨公債	一七四一五〇〇〇	〇	〇	〇
第三回四分利付英貨公債	二〇七三三〇〇〇	〇	〇	〇
舊鐵道會社債務	一三六八二〇〇	〇	〇	〇
外借	六五〇〇〇〇〇	〇	〇	〇
大藏省證券	八三三九〇二九三	〇	〇	〇

舊韓國政府債務、明治四十三年八月二十九日併合ノ結果帝國ノ債務ニ歸
 日本及ヒ歐米主要國ノ國債概況 帝國國債ノ現況
 六二七

屬シタルモノナリ從テ借入金ニハ舊韓國政府借入金二千〇九十六萬三千九百二十圓ヲ算入セリ尙最近明治四十四年十一月末ノ現在高左ノ如シ

(明治四十四年十一月末現在)

國債種別	利率(分)	金額
國債總額		二五七五八一九七二一
內國債		一一三八三七〇三二五
舊鐵道公債		二四一三九九九
鐵道公債		五五八八九〇〇
事業公債		一〇八三一四〇〇
北海道鐵道公債		八一二一五〇
臺灣事業公債		三八五六五〇
舊鐵道會社債務整理公債		二七六八三八五〇
沖繩縣諸務公債		一六三〇七〇〇
救恤公債		九七四二〇〇
鐵道買收公債		四七〇〇五九二〇〇

製鹽地整理公債
 國庫債券整理公債
 臨時事件公債
 恩賜公債
 四分利公債
 舊鐵道會社債
 舊韓國政府債務
 起業公債
 導掌賜金公債

五六 七四五五五五

外國債
 第一回四分利付英貨公債
 第二回四分利付英貨公債
 第三回四分利付英貨公債
 第二回四分利付英貨公債
 五分利付英貨公債
 四分利付佛貨公債
 第三回四分利付英貨公債

一	一〇〇〇〇〇〇
一	一一六八二五
一	四三七四四九三九六
九七	六三〇〇〇〇
二八七	九八七九九七
二八八	〇〇一〇八〇
二四四	〇七三〇四七
二二四	五四六〇七一
一七四	一五〇〇〇〇
一〇七	三九三〇〇〇

日本及ヒ歐米主要國ノ國債概況 帝國國債ノ現況

舊鐵道會社社債	四五五	一三六六八二〇〇
外ニ大藏省證券	八〇〇〇〇〇〇〇	一〇九四七九五五二
借入金		

然リ而シテ明治五年以來ノ起債額ハ四十億八千六百九十八萬八千百十五圓ニシテ、同債還額ハ十四億五千六百八十二萬六千四百九十七圓トス、中ニ就キ目下内國債ハ二十種程ニシテ、其ノ利子歩合ハ七歩ヲ最高トシ、四分ヲ最低トシ、猶ホ六分及ヒ五分ノモノアリ、外國債ハ都合八種ニシテ、其ノ利子歩合ハ四分、四分五厘及ヒ五分ノ三種アリ、一昨明治四十二年以來第二次桂内閣ハ國債ノ整理ニ腐心シ、所謂借替ノ爲メ發行シタル四分利公債ノ總額ハ五億五千六百餘萬圓ニシテ、償還シタル五分利公債ハ五億千八百餘萬圓ナリ、之カ爲メ毎年利子ノ節額ハ三百六十餘萬圓ニ達スト云フ、亦一成功タルヲ失ハス。

其ノ他明治四十三年九月末日ニ於ケル地方債ハ總計一億六千七百二十八萬八千八百八十六圓ニシテ、中ニ就キ最多額ヲ占ムルハ市債ナリ、同時限ニ於

ケル市債及ヒ區債ハ合計一億三千百九十四萬八千五百七十二圓ニ上ル、故ニ我團體經濟ノ債務ハ昨年ノ末ニ於テ總計大略二十九億四千四百八十四萬十百九十五圓餘ニ達スル筈ナリ。

第三節 各國國債費ノ比較概要

予輩ハ既ニ第四章第七節ニ於テ各國財政ノ一斑ヲ説明スルニ當リ、其ノ國債額ヲ指示セリ、故ニ茲ニハ明治四十一年ニ於ケル各國國債費ト、國民所得人當リ十圓ニ對スル國債費ノ負擔ト、之ニ加フルニ明治四十三年二月四日倫敦市場ニ於ケル相場ニ依リテ、以テ其ノ利廻リヲ示サントス、蓋シ國債ノ利廻リハ其ノ國ノ信用程度ヲトスル好個ノ一標準タラスンハアラス。

國名	國債費(單位百萬圓)	國民所得人當リ十圓ニ對スル國債費額	利廻リ(%)
日本	一七六	〇六〇〇圓	四二五+
英國	二〇一	〇一二五同	三〇六

日本及ヒ歐米主要國ノ國債概況 各國國債費ノ比較概要

伊	埃	露	佛	獨	未
甸					
國	國	國	國	國	國
二二七	二六六	三七六	三七八	三四九	四二
〇三七八同	〇三七七同	之ヲ缺ク	〇三〇七同	〇二二二同	〇〇一一同
三六五	四〇四	四三〇	三〇六	三五五	三三四
+	+	+	-	+	+

六三〇

第五編 歲計豫算論

第三十四章 總論

第一節 豫算ノ由來及ヒ目的

現今財政上並ニ政治上最モ喧シキ問題タル豫算ハ其ノ起原ヲ英國ニ發ス蓋シ現今謂フ所ノ豫算ハ先ツ人民カ租稅ノ納附ヲ承認シタルニ起リ、次テ其ノ徵收シタルモノヲ使用スル方法ヲ定ムルニ由テ成リシモノナリ。顧フニ英國ニ於テハ一千六百八十六年すちゆわーと朝滅ヒ和蘭ノうゐりあむ王入テ王位ヲ嗣キタル時ニ於テ既ニ財政上既定ノ歲出ナルモノト行政上及ヒ軍事上ノ費用ニシテ年國會ノ議決ヲ經ヘキモノトノ區別ヲ生シ居レリ。而シテ人民カ政府ノ歲入ニ對シテ協賛ヲ與フルノ權利ハ是レヨリ先キ遙カ以前ニ於テ既ニ政府ノ認メタル所タルノミナラス、既ニ法律ノ明文ヲ以テ之ヲ規定

豫算ノ由來及ヒ目的

シタル程ナリキ。若シ夫レ豫算ヲシテ單ニ政府ノ收支ニ關スル會計書タラシメハ、之ヲ調製シタルモノ豈獨リ英國ノミナランヤ、他ノ專政諸國ニ於テモ之レ有リシヤ疑ヲ容レズ、然カルニ此等諸國ノ會計書ヲ稱シテ豫算ト云フ能ハサル所以ハ其ノ調製ノ方法異ナルニ由ル蓋シ豫算ハ議會ノ協賛ヲ經タル政府ノ會計書タラサルヘカラス、換言スレハ公ニシタル政府ノ會計書タルヲ要ス、政府部内ニ於テ秘密ニ作ル勘定書ノ如キハ之ヲ豫算ト謂フヘカラス。

抑モ豫算ノ目的ハ第一、政府各行政部ノ費用ヲ計量シ、而シテ人民ノ國家ノ爲メニ負擔スル所ハ其ノ經濟力ト果シテ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ明ニスルニアリ、此目的ヲ達センカ爲メニハ政府一個ノ私見ヲ以テセスシテ普ク人民ノ之ヲ承知スル必要トス、第二、豫算ハ政府ノ財政ノ判斷スルニ必要ナル材料ヲ供スルニアリ、實ニ豫算ヲ以テ財政ノ整理ヲ圖ルハ管ニ行政上必要ナルノミナラス、政府ノ信用ヲ維持スル上ニ於テ緊切缺クヘカラサルモノナリ、換言スレハ一國ノ存立維持ヲ保ツ上ニ於テ緊要ナルモノナリトス。

豫算ハ其ノ語源ヲ佛蘭西語ノ**budget**ニ發シ、元來革義ナル意義ヲ有シタリシカ、彼ノのるまん人カ英國ヲ征服シテ佛蘭西ノ文物制度ヲ輸入セルニ當リ此ノ語モ又輸入セラレ後豫算ノ意味ヲ有スルニ至レリ、今其ノ字義ノ變遷セシ由來ヲ探スルニ、既ニ述ヘタルカ如ク古代ニ於テハ英國モ亦他ノ歐洲諸國ト等シク、國王ハ國費ヲ支辨スルニ必要ナル經費モ一般人民ニ取ラス己ノ私有財産ヨリ生スル收支ニ求メタリ、然カルニ世ノ變遷スルニ從ヒ政費ハ漸ク増加スルモ其ノ財産ノ收入ハ之レニ伴ハス、遂ニ已ムヲ得ス、之ヲ人民ニ資ルニ至レリ、此ノ時ニ當リ國王ハ其ノ大臣ヲシテ年々政費ノ不足部分ヲ紙面ニ記載セシメ、之ヲ一ノ革義ノ中ニ容レテ議場ニ持參セシメ、而シテ大臣ハ其ノ囊中ヨリ審附ヲ取出シ一議會ニ於テ説明シテ以テ承諾ヲ經タリ、茲ニ其ノ革義ハ議會ノ協賛ヲ要スル收入ノ全部ヲ含タルヲ以テ、遂ニ斯ル審附類ヲ總稱シテ**budget**ト云フニ至レリ、其ノ後歐洲ノ諸國ハ皆此ノ語ヲ採用シテ財政上ノ用語トナセリ、尤モ現今英國ニ於テ議院ノ慣用語トシテ

「ばしえつと」ト云フ時ハ、歳入歳出總豫算ヲ指スヨリハ、專口主トシテ歳入豫算ヲ意味スルヲ例トス。

第二節 豫算ノ意義

次ニ豫算ノ定義ヲ下サンニ、豫算トハ豫メ立法機關ノ協賛ヲ經タル政府一會計年度間ノ收支ニ關スル準則ナリ。此ノ定義ニ從ヘハ、豫算ハ第一豫メ立法機關ノ同意ヲ要シ、第二政府ノ收入支出ニ關スル準則ニシテ、第三其ノ收入支出タルヤ一財政年度間ノ收支ニ限ラル。人或ハ或種ノ收入若クハ支出ハ必シモ一財政年度内ニ限ラスシテ數年ニ渉ルモノアリ又、豫メ立法上ノ協賛ヲ經サルモノニシテ尙ホ政府ノ支出タルヘキモノアリ、トノ理由ヲ以テ以上ノ定義ニ非難ヲ加フルモノアルモ、斯クノ如キハ例外ニシテ一般ノ通則ト稱シ難シ、抑モ豫メ立法上協賛ヲ經サル政府ノ支出入ハ之ヲ豫算ト稱スルコト能ハス、云ハハ唯政府カ其ノ時ニ於テ行政政治上ノ必要ニ迫ラレ收支スルニ外

ナラス、又一會計年度以上ニ亘ル收支ハ豫算ヲ以テ定ムヘキモノニ非ス、別一法律ノ定ムル所ナリ、故ニ以上ノ場合ハ設令豫算ノ定義中ニ含マレサルモ、小シモ差支ナシトス。

豫算ハ法律タルヤ否ヤ、是レ能ク理論上ノミナラス實際ニ於テモ疑ノ存ル所ナリ、歐洲諸國ニ於テモ民主主義盛行ハレテ、議會ノ權利ヲ以テ政府ノ權限ヲ制限セントスル傾向ヲ有スル國ニ於テハ豫算ヲ以テ法律ナリトナ例多シ、既ニ憲法上認メテ以テ法律トナス國アルヲ見ル、然レトモ君主主義國ニアリテハ其ノ果シテ法律タルヤ否ヤハ曖昧ナリト雖モ、豫算ハ固ヨリ豫算ニシテ法律ニアラストナスヲ至當トス、既ニ憲法ノ明文上法律ト認ムル國ニ於テハ其ノ法律タルヲ說クハ立法論ニ屬シ法律ノ解釋タルコトヲ付ス、實益亦從テ少シ、サレト法律タルヤ否ヤニ就テ法文上ノ規定ナキ國ニアラテハ之カ解釋ハ畢竟學理上ノ判斷ニ待タサルハカラス、帝國憲法ニハ豫算ハ議會ノ協賛ヲ經ルトアリ、豫算ヲ以テ直接ニ法律ナリト明言セス、故ニ疑ノ存

スル所ハ議會ニ於テ協賛スルノ故ヲ以テ法律タルヲ得ルヤ否ヤニアリ。

第三節 豫算ト三權分立説

嘗テ昔ネク行ハレタリシ三權分立ノ説ニ從ハシカ、豫算ニシテ議會ノ協賛ヲ經ルモノタル以上ハ認メテ法律トナスコトヲ得ヘシ、是レ他ナシ、議會ハ純ラ立法ノ事ノミヲ司リ、政府ハ君主ト共ニ行政ノ事ノミヲ司リ、裁判所ハ獨立シテ司法ノ事ノミヲ司ルモノナリトスルニ於テハ、議會ノ協賛ヲ經テ始メテ成立スル豫算カ法律タラサルヲ得サルハ論理上當然ノ結果ナレハナリ、サレト國家ノ主權ハ如此果シテ之ヲ分割シ、之ニ獨立ノ權能ヲ有セシムルコトヲ得サルヤ、論ナキノミ。

抑三權分立ノ説ハ其ノ初メもんですきゆーカ英國ノ政體ヲ觀察シテ主張シタル所ニ係ルモ、是レ實ニ英國政體ノ真相ヲ究メサルノ結果ニ出ツ、之ヲ英國ノ政體ニ徵スルニ決シテ三權相獨立シテ、其ノ範圍ヲ守リ相侵ササルニ非

ス、況ンヤ法理上國家ノ主權ハ唯一不可分ナルニ於テオヤ、國家ヲ統一司配ヘルモノハ唯一ノ主權アルノミ、蓋シ之ヲ譬フルニ尙ホ唯一ノ精神カ人身ヲ配スルカ如キノミ、三權分立ハ到底支持スヘカラサル謬見タリ、故ニ立法行政司法ノ三權ニ全然獨立シテ相制限關涉スル所ナシト謂フハ誤リニシテ、立法ヲ司ル議會ト雖モ必シモ法律ノ制定ノミニ限ラス、其ノ他ノ國家事務ニモ關涉スルコトアリ、もんですきゆー等カ金城鐵壁トシテ其ノ説ヲ主張シタル英國ノ實例ニ就テ之ヲ見ルモ、議會ハ獨リ法律制定ノミヲ掌ラス、行政上ノ行為ニ關涉スル場合多シ、例ヘハ土地買上ノ如キ、鐵道敷設許可ノ如キ、皆議會ノ承認ヲ經ヘキモノナリ、然レトモ此等ノ行為ハ之カ爲メニ行政行為タルコトヲ妨ケサルナリ。

第四節 豫算ハ法律ニアラス及ヒ其ノ效力

是ヲ以テ之ヲ觀ルニ豫算ハ立法ノ事ヲ以テ本分トセル議會ノ協賛ヲ經ル

理由ノミニテハ法律タルヲ得ス、豫算ノ法律タルト否ラサルトハ豫算カ法律タル要件ヲ具有スルヤ否ヤニヨリテ分ル。抑モ法律ノ要件ニ二アリ、一ハ形式上ノ要件ニシテ他ハ實質上ノ要件タリ、形式上ノ要件ハ立法上ノ手續ニヨリテ議會ノ協賛ヲ經ヘキコトニ存シ、實質上ノ要件ハ其ノ規定スル所カ人民ノ權利義務ニ關スルコトニ存ス。然ラハ豫算ハ果シテ此ノ二要件ヲ具フルヤト言フニ然ラス、豫算ハ法律タルヘキ實質的要件ヲ缺如ス。凡ソ豫算ニ記載スル所ハ法律若クハ命令ヲ以テ已ニ既ニ規定スル結果ニ基ク、其ノ歳入ニ關シテハ租税ニ關スル法律官有財産ニ關スル法律其ノ他ノ諸收入ニ關スル法律命令ヲ以テ之ヲ規定ス。支出ニ關シテハ自カラ法律命令ノ定ムル下ニ從テ記載スルモノアリ、軍人ノ恩給、國債ノ利子償還其ノ他政府ノ義務ニ屬スル支拂ノ如キ皆法律命令ヲ以テ之ヲ定ム。然ラハ豫算ハ權利義務ヲ規定スル法律ニ非ス。法律ノ定ムル所ニ從テ國家ノ歳入歳出ヲ記載シ以テ政府收支ノ準則トナスモノナリ、零言スレハ豫算ハ法律タルノ實質的要件ヲ具有セス、是レ其ノ計

律タルヲ得サル所以ナリ、既ニ法律タルヲ得ストセハ豫算ノ性質ハ果シテ如何ナルヘキ他ナシ、行政上ノ準則タルコト即チ是レナリ、或ハ曰ク豫算ハ國家ノ歳出入ニ關シテ政府ヲ束縛制限ス、殊ニ歳出ニ關シテハ政府ノ行政各部ハ豫算ノ定ムル所ニ從テ支出セサルヘカラス、其ノ效力ハ毫モ法律ト異ナルコトナシ故ニ豫算モ法律タルヲ得ト、一見不可ナキカ如シト雖モ其ノ實ハ然カラス、法律カ吾人ノ行爲ヲ制限束縛スルハ論ナキ所ナルモ、竊テ人類ノ行爲ヲ制限束縛スルモノハ總テ法律ニ非ス、行爲ヲ束縛スルモノニシテ而カモ尙ホ法律ニ非サルモノノ著例ハ吾人之ヲ行政處分ニ見ル、故ニ豫算ハ政府ノ行爲ヲ制限スト雖モ之ヲ以テ法律ト稱スルヲ得ス、唯政府ハ豫算ニ準據シテ收支ヲナササルヲ得サルカ、故ニ之ヲ行政上ノ準則ナリトハ謂フナリ、既ニ豫算ニシテ法律ニ非サル以上ハ法律ハ以テ豫算ヲ變改スルコトヲ得ルモ、豫算ハ以テ法律ヲ變更スルヲ得ス、豫算ハ常ニ法律命令ノ範圍中ニ於テ之ヲ作成セサルヘカラス。

豫算カ政府ヲ制限束縛スルコトハ以上ノ如クナルモ、其ノ拘束力タル必スシモ絶對的ノモノニ非ス、國務大臣ハ必スシモ豫算ニ由テ政務ヲ行フヘキ義務ヲ有セス、一通リハ豫算ニ依ラサルヘカラサルモ、若シ特殊ノ理由ノ存スルトキハ豫算ニ依ラサルヲ得ルコトアリ、是レ國務大臣ノ權限ハ豫算ニ由リテ生スルモノニ非ス、他ノ法律若シクハ憲法ニヨリテ定メラレ、或ハ主權ノ命スル所ニ由レハナリ。

豫算ノ整頓スルト否トハ政治上及ヒ國家ノ信用上大ナル關係ヲ有ス、豫算ニシテ整頓セザランカ、財政ノ紊亂ヲ來シ、遂ニ政治上ノ問題ヲ惹起シ、國家ノ信用亂レテ亦收拾スルニ由ナカラン、斯ル重大ノ意義ヲ有スル豫算ハ三ツノ關係ニ立ツ、第一行政上ノ關係、第二政治上ノ關係、第三財政上ノ關係是レナリ、所謂行政上ノ關係トハ豫算ヲ編成スルコトヲ謂ヒ、政治上ノ關係トハ之ヲ議定スルコトヲ謂ヒ、財政上ノ關係トハ支出ヲ辯スルニ必要ナル收入ヲ得ル途ヲ講シ、加之豫算ヲ實行スルニ當テ要スル監督ノ謂ナリ、先ツ豫算ノ編成ヨリ

之ヲ論セン。

第三十五章 豫算ノ編製

第一節 豫算編製ノ時期

豫算ハ行政機關ノ調製スル所ナリ、國家ノ歳出及ヒ歳入ヲ考察按排シ、會計年度ニ從ヒ以テ收支相平均セシムルコトヲ圖ルヲ目的トス。豫算ヲ調製スルニ方リ注意スヘキコト種種アリ、左ニ其ノ緊要ナルモノヲ述ヘン。

第一、豫算編製ノ時期ハ可成其ノ議定及ヒ實施ノ時期ト接近セシムルヲ要ス。我法律ニ由レハ豫算ノ調製ト議定トノ間ニ四ヶ月アリ、其ノ間隔決シテ長キニ過クト謂フヘカラス、然レトモ英國ニ至テハ其ノ間隔更ニ短ク三ヶ月ト定メラルルモ實際ハ必スシモ三ヶ月ヲ要セス、是レ英國ニアリテハ豫算ノ編製方法歳入歳出ニ關スル總豫算ヲ以テセス、或ハ特ニ一行政官衙ノ經費ヲ議シ、或ハ一會計年度間ノ經費ヲ一纏メニ議セスシテ特ニ二ヶ月或ハ三ヶ月ノ經費ヲ限リテ議定スルコトアルヲ以テナリ、是ヲ以テ現在ノ會計年度ノ

始マリタル後其ノ會計年度カ歳出入ヲ議定スルコト稀ナラス、抑モ豫算ノ調製ト議定トヲシテ其ノ間隔ヲ短カカラシムルノ目的ハ他ナシ、豫算ト實際收支トヲシテ相齟齬セシメサラントスルニ外ナラス、英國ノ如ク其ノ時日密接スルニ於テハ豫算ト實際トノ間ニ齟齬ヲ來スコト最モ少ナシ、佛蘭西ニアリテハ財政ノ整頓セサルト租稅制度ノ不備ナルトニ由リ、豫算ヲ調製スル時ト之ヲ議定實行スル時ト大ニ懸隔シ、往時ハ三年若シクハ四年ノ間隔アリタリ、カ爾後次第ニ短縮シ現今ニ至ツテハ一年有餘トナレリ、サレハ短縮シタリ、謂フモ他國ニ比スレハ大ニ長シ。

第二、豫算ハ三年越ノモノナリ、凡ソ豫算ヲ調製セント欲セハ現在及前年度ノ收支ノ有様ニ適應セシメサルヘカラス、既ニ前年度ノ收支状態ヲ斟酌シテ之ヲ調製シ、然ル後議會ニ提出シ、其ノ議決ヲ經テ來會計年度ニ於テ之ヲ實施スルモノナル以上、豫算ハ其ノ標準ヲ二年前ノ歲計ニ取り、前年度ニ於テ調製議決シ、現會計年度ニ於テ實行スルモノト謂フヘシ、是レ豫算ヲ以テ

年越ナリト謂フ所以ナリ。現今社會ノ狀態ハ日ニ月ニ變遷シ暫クモ停止セス之ニ伴ヒ國家ノ歳出入モ亦變遷セサルヲ得ス。豫算編製後實施ニ至ルマテノ期間長キニ過クレハ過クル程實際上ノ齟齬ヲ來スコト明ナリ。

第二節 豫算ノ編製者

第三、豫算ノ調製ハ大藏大臣之ヲ掌ル。嘗テ憲法ノ制定ナキ國ニアリテハ歳入歳出ハ總テ會計官ノ專斷ニ屬セシモ立憲政體ノ確立ヲ見ルヤ、會計事務ヲ掌理スル大藏大臣ハ唯各行政官衙ノ要求ニ從ヒ豫算ヲ調製スルニ與カレノミトナレリ。現行法律ニ依レハ、前年度五月三十一日マテニ各官廳ヨリ歳入概算書及ヒ歳出概算書ヲ大藏大臣ニ送附シ、大藏大臣ハ六月三十日マテニ歳入、歳出總概算書ヲ作りテ之ヲ閣議ニ提出シ、七月十五日マテニ閣議ヲ決定シ、各省ハ此ノ決定ニ基キ豫算經費要求書ヲ調製シテ八月三十一日マテ大藏大臣ニ送付ス。大藏大臣ハ之ニ基イテ總豫算ヲ調製スヘキナリ。故ニ大藏大臣

ハ歳入歳出ノ豫算ヲ調製スルノ權利ヲ有ス、但シ其ノ權限タル無二ノモノニ非スシテ豫定經費要求書ヲ以テ其ノ標準トナサ、ルヘカラス。此ノ時ニ當リ實際各省經費ノ釣合ヲ取り其ノ額ヲ定ムルハ何人ノ權限ニ屬スルヤト云フニ、豫算ノ調製上各經費ノ釣合ヲ立テテ之ヲ定ムルハ内閣ニシテ、議定上其ノ權利ヲ有スルハ議會ナリ、殊ニ衆議院ナリ。尤モ豫算ノ調製ニ關スル大藏大臣ノ權限ハ近時漸ク新事例ヲ開カントスル傾向ナキニアラス。例ヘハ普魯士ノ國ニ於ケルカ如シ。

第三節 豫算ノ種類

第四、豫算ノ種類。豫算ハ其ノ觀察點ノ如何ニヨリテ種種ニ分類セラレ今其ノ主要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ。

(一) 豫算ハ之ヲ調製シ且ツ議會ニ提出スル順序方法等ニ由リテ總豫算及ヒ特別豫算ノ二種トナス。總豫算トハ政府全體ノ收支ニ關スル豫算ヲ謂ヒ、收

入ニ關シテハ各其ノ種目ニ從テ之ヲ列記シ、支出ニ付テハ各獨立ノ官廳ニヨリテ之ヲ列記スルモノナリ。特別豫算トハ之ニ反シ、政府全體ノ收支ヲ記載セサルハ言フ迄モナク、或ル特種ノ收入若クハ經費ヲ記載スルモノアリ、或ハ二三ノ特別官廳ノ收支ヲ記載スルモノアリ、或ハ又之ト趣ヲ異ニシ、總豫算ヲ説明シ若クハ之ニ附屬セシムル爲メニ調製スルモノアリ、要スルニ特別豫算ノ意味タル確定シ居ルニ非ラス、之ヲ用フル場合ニヨリテ其ノ意義ヲ異ニス。

(二) 豫算ハ經費支出ノ時限ニ從テ過去豫算、現在豫算及ヒ將來豫算ノ三トナス。過去豫算トハ已ニ生シタル事柄ニ向テ支出シ、若クハ既ニ支出シ終リタル經費ニ付テノ豫算ナリ、所謂追加豫算ノ多クハ之ニ屬スヘシ。凡ソ一國ノ政務ハ確定不動ノモノニ非ス、豫算編製ノ當時豫期セス、又ハ豫期スルコト能ハサル、事變ノ突發スルナキヲ保セス、サレト苟モ國アル以上ハ豫算ニ計上ナキヲ理由トシテ之ヲ看過スルヲ許サス、國務大臣ハ法律ノ定ムル所ニ從テ應變ノ處置ヲ取ルヲ要ス、是ヲ以テ豫算ニ計上セラレサル經費ヲ要スル場合ニハ

先ツ之ヲ支出シ、後來議會ノ承認ヲ求メサルヘカラス、之ヲ稱シテ事後承諾ト云フ。是レ過去豫算ノ必要アル所以ナリ。現在豫算トハ普通要スル所ノ經費ヲ規定スルモノニシテ、將來豫算ハ之ニ反シ現在行ノ事務ニ限ラス、數年ノ後行フヘキ事務ニ對シテ要スル經費ヲ規定スルモノナリ。繼續費ノ如キ其ノ一例ナリ。凡ソ一國ノ政治ハ永遠不確定ノモノタリ、サレハ事務ノ性質上數年若クハ數十年ヲ經過シテ後始メテ完成スルモノアリ。佛國ノのーどるだーむノ寺院ハ殆ンド百年ニ亘ル長年月ヲ要シタリキ。此等ノ長期間ヲ要スル事業ニ對シテハ工事ノ設計ニヨリ豫メ其ノ經費ヲ承認スルヲ便利トスル場合アリ、且レ將來豫算ノ由テ生スル所以ナリトス。

(三) 豫算ハ會計年度ノ長短ニ從テ一年豫算及ヒ數年豫算トナス。凡ソ會計年度カ一年ヲ以テ始終スル場合ノ豫算ハ之ヲ一年豫算ト謂ヒ、一年以上數年ニ亘ル場合ヲ數年豫算ト謂フ。數年豫算ノ例ハ獨乙聯邦中ノばダありや及レるくせんぶるぐ等ニ於テ之ヲ見ル。會計年度ヲ一年トシ若クハ數年ニ亘ラ

ムルハ必スシモ一定シ居ルニ非ス、國小ニシテ歳出入ノ變動スルコト少ナク殊ニ議會ノ權力盛ニシテ豫算ヲ以テ濫リニ行政權ヲ制限スル國ニアリテ會計年度ハ長キ方却テ便利ナルモ、之ニ反シ議會德義高ク豫算ヲ議スルコト慎重ニシテ、且ツ歳入歳出カ複雑ナル場合ニ於テハ一年ヲ以テ最モ便利トス、殊ニ英國ノ如ク永久費ト暫定費トノ區別ヲ立テ行政權ニ活動ノ餘地ヲ與フル場合ニ於テハ最モ然リトス、要スルニ會計年度ノ長短ハ國家歳出入ノ種類性質及ヒ政府ト議會トノ關係如何ニヨリテ之ヲ決セサルヘカラサルナリ。

第四節 豫算ノ組織

豫算ハ歳入歳出ノ二大部分ヨリ成ル、而シテ又之ヲ分チテ經常及ヒ臨時ノ歳出入トナスハ我現行制ナリ、英國ノ制度ハ歳出ヲ分チテ三部トナス、第一部長官費、國債費、年金等所謂永久經費ニシテ、第二部長官費其ノ他行政上ノ經費ナリ、第三部長官臨時經費是レナリ、此ノ豫算調製方法ハ議定上最モ便利ナリ、

リ、何トナレハ議會ニ於テ常ニ討論スヘキモノト、討論スルヲ要セサルモノトヲ分チテ一目瞭然タラシムルノミナラス、經常費ト臨時費トヲ分テハナリ、然レトモ之未タ以テ充分ナリト云フヲ得ス、願フニ豫算ノ目的タル當ニ一國財政ノ狀況ヲ知ルニ便利ナルノミナラス、亦人民ノ經濟ト如何ナル關係ヲ有スルヤヲ示ササルヘカラス、換言スレハ政府ハ所謂財政費ト純粹ノ行政費トノ關係ヲ明ニセサルヘカラス、故ニ完全ナル豫算ノ調製法ハ先ツ租稅徵收費其ノ他ノ收納費ヲ記載シ、次ニ既定ノ歳出即チ法律ノ結果ニ由ルモノヲ載セホニ暫定費用ヲ記シ、最後ニ臨時費ヲ記載セサルヘカラス、此ノ方法タル經費ノ性質ニヨリテ之ヲ分類スルモノナレハ財政ノ現況ヲ知ルニ便ナルノミナラス、議定上大ニ都合宜シ、然レトモ普通豫算ノ編製ハ各行政官廳ノ分類ニ基テ之ヲ爲スヲ常トス。

豫算ニ附帶シテ議員ノ參考ニ供スル爲メ議會ニ提出スルモノ之ヲ稱シテ附屬書ト云フ、其ノ重ナルモノハ前年度ノ歳入、歳出ノ説明書及ヒ各省經費ノ

説明書ナリ、其ノ他豫定經費要求書及ヒ前年度ノ現計書ヲ以テ參考ニ供スルコトアリ。

豫算中ニ含ム各經費ハ之ヲ款項節目等ニ分ツ、經費ヲ細目ニ分ツノ可否ハ豫算編製上注意スヘキ問題ナリ、若シ細ニ失ストキハ一方ニ於テ不足アルモ他方ノ餘裕ヲ以テ之ヲ補フコト能ハス、勢ヒ經費ノ支拂上不便ヲ感スルニ至ルヘシ、故ニ財政ノ運用ヲシテ圓滑ナラシメントセハ細ニ過キササルヲ可トス、豫算ハ元來想像ニ基クモノナルカ、其ノ之ヲ編製スルニ當リテハ可成事實ニ近ク之ヲ見積ルヲ要ス。

若シ經費ノ見積高キニ過キンカ、支出收入ニ超過シテ歳入ノ不足ヲ生スヘシ、歳入ノ不足ハ當ニ政治上ノミナラス國家ノ信用ニ害アリ、之ニ反シ歳入ノ見積多キニ過キンカ、實際ノ收入之ニ伴ハス、又假令歳入ノ超過アリトスルモ、濫費ノ弊ヲ生シ易シ、往年合衆國政府ノ財政状態ハ以テ殷鑑トナスニ足ル、最後ニ豫算ハ統一主義ニヨリテ之ヲ編製セサルヘカラス、豫算ノ不統一ハ

一方ニ於テ財政紊亂ノ因ヲ爲シ、他方ニ於テ政治上權力ノ分立ヲ招ク恐レアリ。

第三十六章 豫算協賛論

第一節 議會ノ豫算協賛權ノ根柢

立憲國ニ於テハ議會ハ豫算ノ協賛權ヲ有ス、其ノ協賛權ノ根據カ何レニ存スルヤハ法理上ノ問題ナリトス、或ハ豫算協賛權ノ根據ヲ人民ノ租稅負擔ノ事由ニ求ムルモ、アルモ、ソハ不當ノ見解ナリ、君主獨裁制及ヒ中世封建時代ニアリテ人民ハ租稅ヲ負擔セルモ協賛權ヲ有シタルノ事實ナシ、蓋シ協賛權ハ君主國ト民主國トニヨリテ其ノ基ク根據ヲ異ニス、民主國ニ於テハ人民ハ即チ主權者タルノ理由ニヨリ租稅ヲ承認シ、豫算ニ協賛ヲ與フルノ權ヲ有ス、君主國ニアリテハ之ニ反シ、君主ハ人民ヲシテ一國ノ政務ニ與カルノ權利ヲ認與ス、是レ君主國ニ於テ議會ニ豫算協賛權アル所以ナリ。

議會ノ協賛權ヲシテ絕對ナラシメハ由リテ生スル弊害少カラサルヘシ、其ノ然ル所以ハ他ナシ、行政機關ニシテ議會ノ好ム所ニ從ハサレハ、或ハ租稅ノ徵收ヲ拒ミ、或ハ經費ノ支出ヲ拒ミ、以テ一國行政ノ運轉ヲ阻止スルヲ以テナリ、是レヲ以テ若シ議會ノ權利ヲ尊重スルト共ニ行政權ノ獨立ヲ保タシメント欲セハ宜シク議會ノ豫算協賛權ヲ制限セサルヘカラス、英國ニ於テハ永ク費ノ制度ニヨリテ之ヲ制限シ、獨乙ニ於テハ議會ノ議決ニヨリ、佛蘭西ニテ習慣ニヨリテ之ヲ制限ス。

第二節 豫算ノ議定

議會ノ協賛ヲ求メント欲セハ政府ハ先ツ其ノ編製ニ係ル豫算案ヲ議會ニ提出セサルヘカラス、豫算案ノ提出ハ先ツ衆議院ニ之ヲ爲スヲ例トス、衆議院カ之ヲ受取リテ、後調査シ、討議スル方法ハ國ニヨリテ異ナル、英國ニ於テハ、小久費ト暫定費トノ區別ヲ立テ、暫定費ニ屬スルモノノミヲ議シ、以テ議定上ノ煩勞ヲ省ク、暫定費ハ議定ニ先チ之ヲ委員會ニ附ス、委員會ノ組織ハ歐大陸諸國ト異ナリ、我國ノ全院委員會ト其ノ性質ヲ同フス、委員ハ議會ノ撰舉スルセ

ノニ非ス、議員ハ總テ委員會ニ出席スルノ權利ヲ有ス、然レトモ實際ハ豫算ニ
熟達シ利害關係ヲ感スルモノノミ出席ス、故ニ其ノ調査ハ速ニ且ツ公平ナル
ヲ得。

大陸諸國ニアリテハ議會ノ選舉シタル議員ヲ以テ委員會ヲ組織スルカ故
ニ、黨派心ニ妨ケラレ經驗熟達ノ人ヲ缺キ、調査ノ方法宜シキヲ得ル能ハス、徒
ラニ無用ノ言論ヲ費ヤス弊アリ、是ヲ以テ我國ニ於テハ以上ノ二制度ヲ混用
セリ、サレト其ノ是非得失ハ容易ニ斷定シ難シ。

議會ノ協賛ヲ論セント欲セハ歳入歳出ニ付テ別論スルヲ要ス、帝國憲法ハ
歳入ニ關シ明カニ之ヲ規定ス、租稅、手数料、臨時收入、國債募集前年度剩餘金及
ヒ豫算外ノ收入ノ如キ皆然リ、故ニ歳入ハ之ニ據リテ以テ豫算ニ計上セサル
ヘカラス、次ニ歳出ニ付テハ憲法上ニ既定ノ歳出ト年年議會ニ於テ協賛ヲ與
フヘキモノトヲ區別ス、抑既定ノ歳出ハ之ヲ増減スルヲ許サス、若シ議會ニ於
テ之カ増減ヲ企テント欲セハ先ツ法律ヲ改正シ、若クハ政府カ同意ヲ經タル

後ニアラサレハ能ハサルナリ、然レトモ暫定費ニ屬スル行政費ニ至リテハ、ハ
然議會議決ノ範圍内ニアリ、但シ豫算ヲ以テ法令ヲ動カス能ハサルハ論ナシ、
英國ノ憲法ニヨレハ新タニ費目ヲ設ケ、若クハ増額ヲ爲スハ國王ノ特權ニ屬
シ、議會ノ權限ニ屬セス、議會ハ唯經費ヲ減シ費目ヲ削ルコトヲ得ルニ止マ
ル、尙ホ經費ニ付テ一言スヘキハ官業ニ必要ナル經營費ナリ、此ノ種ノ費用ハ議
會ニ議決權ナシ、何トナレハ官營ノ事業ハ一種ノ行政處分ニシテ、議會ハ行政
行使ノ範圍ニ介入シテ之ニ干渉スル能ハサルハナリ、但シ議會ニテ官業ヲ不
當又ハ不必要ト認ムルニ於テハ、政治上ノ問題トシテ政府ニ注意ヲ與ヘ間接
ニ之ヲ監督スルヲ得ルハ云フヲ俟タス。

最新財政學終

總算豫算論 豫算ノ確定

法學博士松崎藏之助著
最新 財政學 (附 奧)

明治四十五年一月二十三日初版印刷
 明治四十五年二月十日再版印刷
 明治四十五年四月二十三日訂正三版印刷
 明治四十五年四月二十五日訂正三版發行
 明治四十五年一月二十七日初版發行
 明治四十五年二月十五日再版發行
 正價金貳圓五拾錢
 本編製本金參拾錢增

禁漢譯
 著作權所有
 松崎藏之助 著
 江草重忠 發行
 松澤珪 印刷
 東京市神田區一ツ橋通町七番地
 東京市神田區下六番町

發行所
 東京市神田區一ツ橋通町七番地
 (電話本局三三三三 四九九番)
 東京市神田區飯田町六丁目二十番地
 (電話本局四三二〇 六番)
 東京市本郷區森川町一番地
 東京市牛込區早稲田鶴卷町
 取次所
 東京市神田區南神保町十三番地
 (電話本局四三二〇 六番)
 東京市本郷區森川町一番地
 賣賣所
 東京市牛込區早稲田鶴卷町
 有斐閣書店
 日本經濟新誌
 有斐閣雜誌店
 終閣書店
 文影堂書店

法學博士松崎藏之助著述

◎增補版 經濟學要義 全一冊 正價金七拾五錢 有斐閣

◎增訂版 農業卜產業組合 全一冊 正價金壹圓五拾錢 同文館

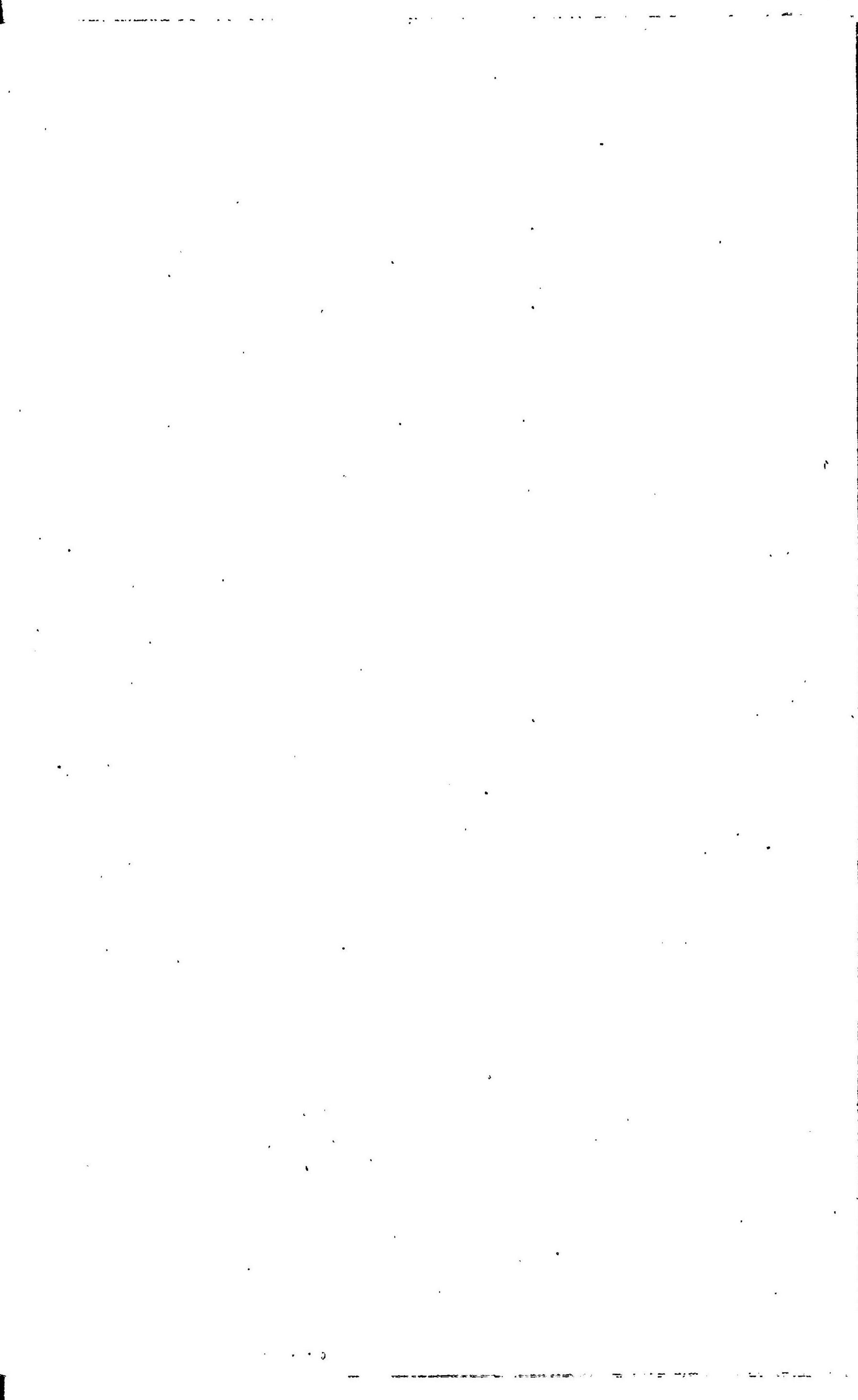
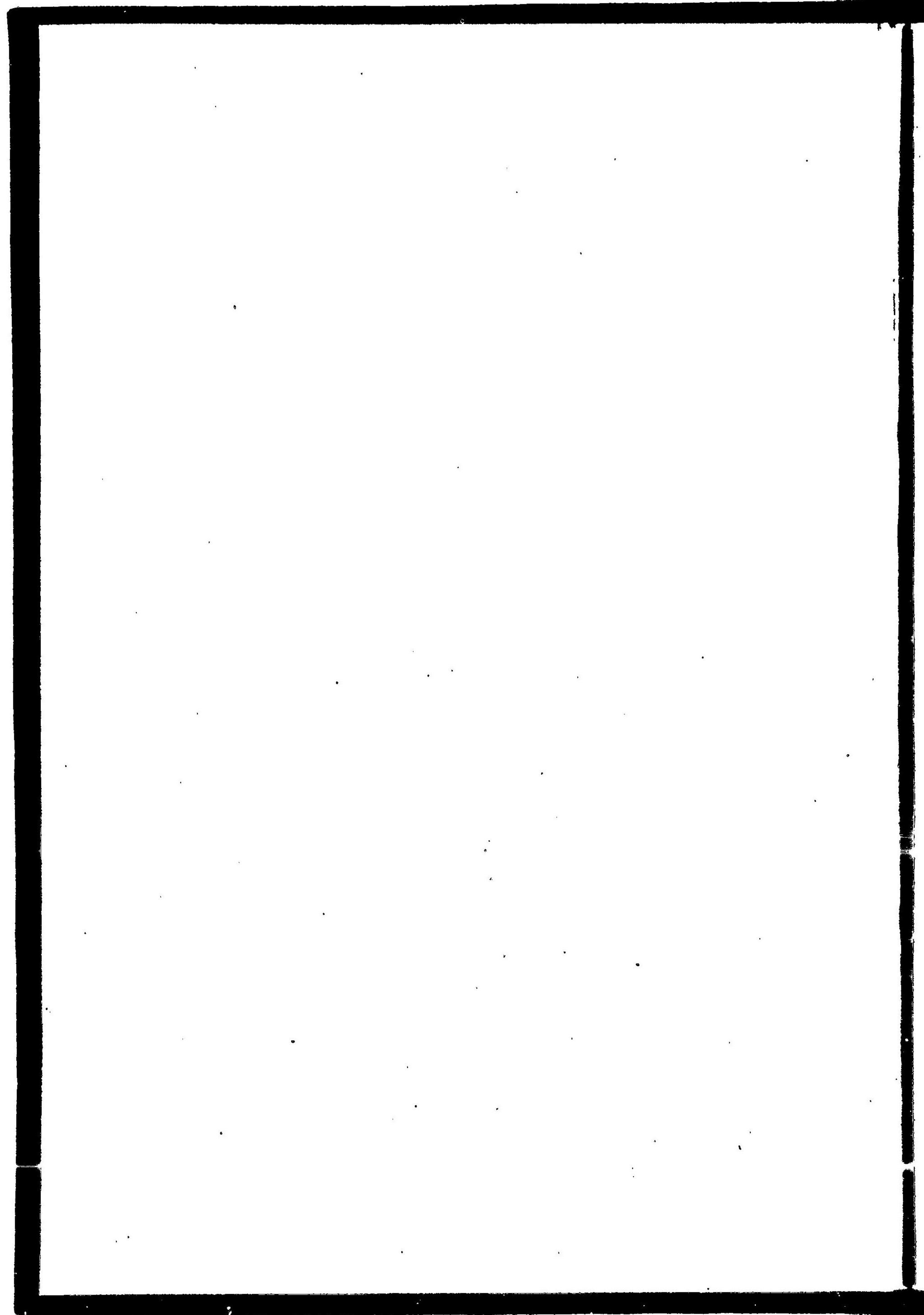
◎第二版 經濟危言 全一冊 正價金壹圓貳拾錢 讀賣新聞社

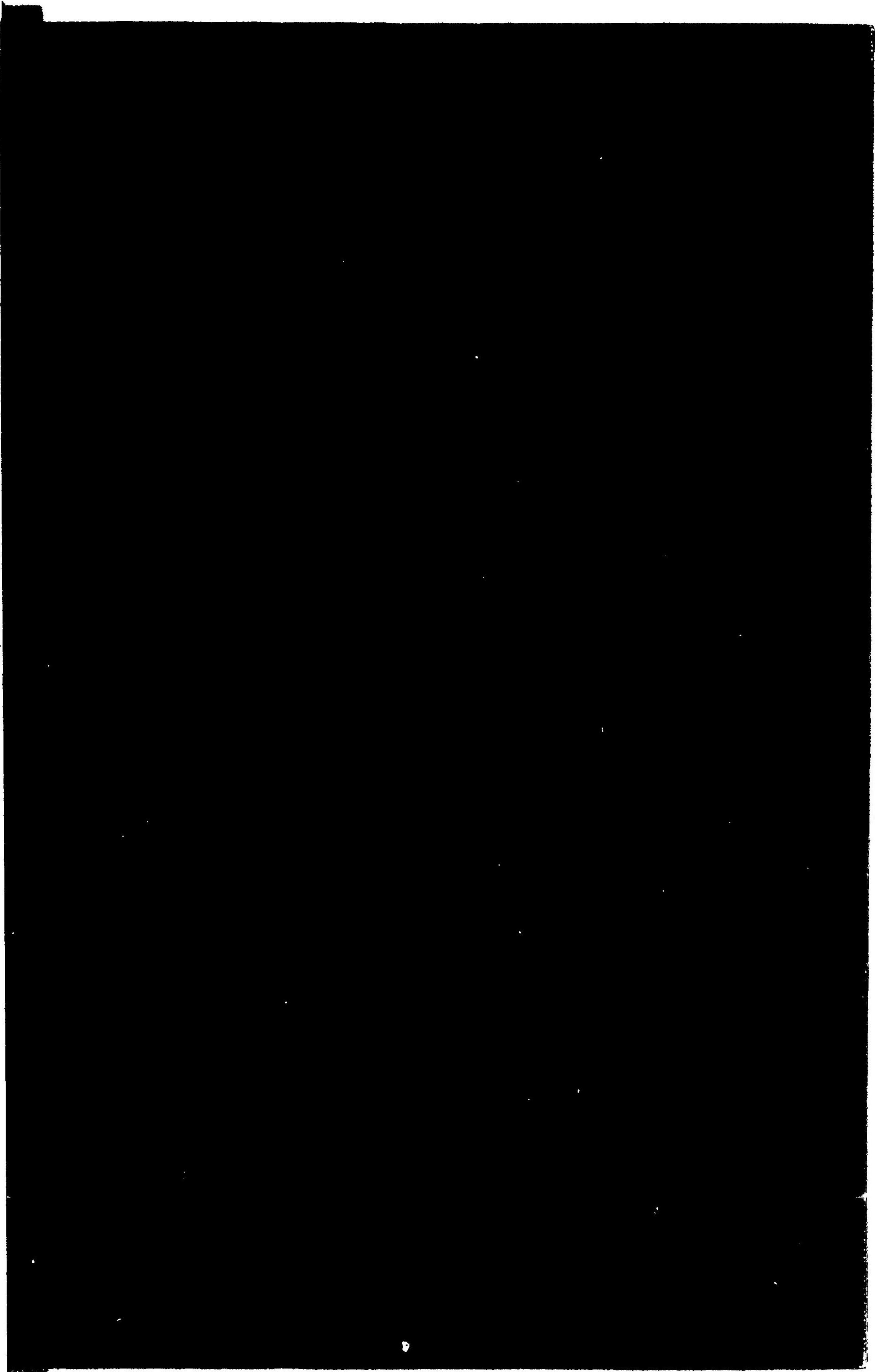
◎第二版 文政危言 全一冊 正價金貳拾五錢 日本經濟新誌社

◎第二版 稅法整理論 全一冊 正價金四拾五錢 日本經濟新誌社

◎三訂版 最新財政學 全一冊 並假金貳圓五拾錢 有斐閣

◎日本農政策 近刊 寶文館





040563-000-5

341-M432z

最新財政学

松崎 蔵之助/著

M45.4

BDE-0190



